

有 価 証 券 報 告 書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成23年4月1日
(第48期) 至 平成24年3月31日

サンコーテクノ株式会社

(E01462)

第48期（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

有 価 証 券 報 告 書

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

サンコーテクノ株式会社

目 次

頁

第48期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	6
4 【関係会社の状況】	8
5 【従業員の状況】	9
第2 【事業の状況】	10
1 【業績等の概要】	10
2 【生産、受注及び販売の状況】	12
3 【対処すべき課題】	13
4 【事業等のリスク】	14
5 【経営上の重要な契約等】	16
6 【研究開発活動】	16
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	17
第3 【設備の状況】	18
1 【設備投資等の概要】	18
2 【主要な設備の状況】	18
3 【設備の新設、除却等の計画】	20
第4 【提出会社の状況】	21
1 【株式等の状況】	21
2 【自己株式の取得等の状況】	25
3 【配当政策】	26
4 【株価の推移】	26
5 【役員の状況】	27
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	29
第5 【経理の状況】	38
1 【連結財務諸表等】	39
2 【財務諸表等】	82
第6 【提出会社の株式事務の概要】	111
第7 【提出会社の参考情報】	112
1 【提出会社の親会社等の情報】	112
2 【その他の参考情報】	112
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	113

監査報告書

内部統制報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月28日
【事業年度】	第48期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
【会社名】	サンコーテクノ株式会社
【英訳名】	SANKO TECHNO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 洞 下 英 人
【本店の所在の場所】	千葉県流山市東初石六丁目183番1
【電話番号】	04-7178-5535
【事務連絡者氏名】	取締役副社長 佐 藤 静 男
【最寄りの連絡場所】	千葉県流山市東初石六丁目183番1
【電話番号】	04-7178-5535
【事務連絡者氏名】	取締役副社長 佐 藤 静 男
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第44期	第45期	第46期	第47期	第48期
決算年月	平成20年 3 月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月
売上高 (千円)	16,804,876	14,872,930	13,143,584	13,626,170	13,851,443
経常利益 (千円)	528,057	315,995	175,554	443,988	583,523
当期純利益又は 当期純損失(△) (千円)	351,573	△31,635	105,056	211,073	285,477
包括利益 (千円)	—	—	—	194,073	213,447
純資産額 (千円)	7,030,670	6,499,732	6,490,998	6,619,581	6,767,781
総資産額 (千円)	15,109,337	13,513,510	13,399,413	13,693,634	13,504,752
1 株当たり純資産額 (円)	3,319.75	3,086.96	3,123.89	3,185.90	3,260.88
1 株当たり当期 純利益金額又は 1 株当たり当期 純損失金額(△) (円)	163.17	△15.55	51.63	103.73	140.30
潜在株式調整後 1 株当たり当期 純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	44.7	46.5	47.4	47.3	49.1
自己資本利益率 (%)	5.25	△0.50	1.66	3.29	4.35
株価収益率 (倍)	8.33	△120.26	33.93	17.35	13.76
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	635,711	533,067	872,120	537,178	537,588
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△212,758	△455,731	△217,600	△449,834	△70,422
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△435,713	△317,616	△179,242	95,752	△493,329
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	1,033,472	729,454	1,207,825	1,379,366	1,313,914
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	565 (121)	564 (108)	548 (92)	556 (93)	554 (103)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、第44期並びに第46期以降は潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第45期におきましては、1 株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 平成19年 4 月 1 日付で 1 株につき 2 株の株式分割を行っております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第44期	第45期	第46期	第47期	第48期
決算年月	平成20年 3 月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月
売上高 (千円)	13,909,623	12,460,553	11,793,697	11,986,247	12,161,998
経常利益 (千円)	347,253	207,454	252,644	279,918	436,716
当期純利益 (千円)	261,176	7,710	147,204	125,010	208,167
資本金 (千円)	768,590	768,590	768,590	768,590	768,590
発行済株式総数 (株)	2,186,352	2,186,352	2,186,352	2,186,352	2,186,352
純資産額 (千円)	5,934,331	5,848,020	5,919,689	5,985,379	6,132,432
総資産額 (千円)	13,668,387	12,852,220	12,935,854	13,187,953	13,088,243
1株当たり純資産額 (円)	2,916.20	2,873.83	2,909.05	2,941.57	3,013.84
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	40 (—)	40 (—)	30 (—)	30 (—)	35 (—)
1株当たり当期 純利益金額 (円)	121.21	3.79	72.34	61.44	102.31
潜在株式調整後 1株当たり当期 純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	43.4	45.5	45.8	45.4	46.9
自己資本利益率 (%)	4.37	0.13	2.50	2.10	3.44
株価収益率 (倍)	11.22	493.40	24.22	29.30	18.86
配当性向 (%)	33.0	1,055.4	41.5	48.8	29.3
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	322 (75)	326 (63)	326 (66)	317 (68)	305 (71)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 平成19年4月1日付で1株につき2株の株式分割を行っております。

2 【沿革】

年月	事項
昭和39年 5月	東京都台東区上根岸にて建設用鋌打ち銃・ピン・アンカー・工具などの販売を目的に三幸商事株式会社を設立
昭和40年 2月	オールアンカー特許出願 生産体制に入る
昭和41年 6月	本社を東京都台東区下谷 3 丁目16番地15号に移転
昭和42年 2月	オールアンカー全国販売開始
昭和42年 3月	愛知県名古屋市の名古屋営業所(現名古屋支店)を設置
昭和42年 5月	大阪府大阪市に大阪営業所(現大阪支店)を設置
昭和43年 8月	オールアンカー代理店制度確立(全国販売)
昭和47年 7月	東京都足立区に技術研究所を開設(新商品の開発に重点)
昭和49年 4月	本社を東京都荒川区東日暮里 6 丁目に移転
昭和50年 7月	宮城県仙台市に仙台営業所(現仙台支店)を設置
昭和50年 8月	北海道札幌市に札幌営業所(現札幌支店)を設置
昭和51年10月	福岡県福岡市に福岡営業所(現福岡支店)を設置
昭和53年10月	岡山県岡山市に岡山営業所を設置
昭和57年 4月	東京都台東区に根岸分室(本社機能)を設置
昭和58年 4月	神奈川県横浜市に横浜営業所を設置
昭和60年10月	東京都荒川区東日暮里 1 丁目に本社を移転
昭和61年 2月	広島県広島市に広島営業所を設置
昭和61年 4月	鹿児島県鹿児島市に鹿児島営業所を設置
昭和62年 6月	静岡県静岡市に静岡営業所を設置
昭和62年 7月	千葉県流山市に配送センターを開設
昭和62年10月	石川県金沢市に金沢営業所を設置
昭和63年 1月	中華民国(台湾)に三幸商事顧問股份有限公司を設立(連結子会社)
昭和63年 3月	USAロサンゼルスにSANKO FASTEM USA INC. を設立(平成13年 3 月撤退)
昭和63年 7月	タイ王国バンコクにSANKO FASTEM(THAILAND)LTD. を設立(連結子会社)
平成元年10月	新潟県三条市に新潟営業所を設置
平成 2 年10月	香川県高松市に高松営業所を設置
平成 5 年 3月	岡山県岡山市に西部物流センター開設
平成 8 年 4月	三幸商事株式会社と三幸工業株式会社が合併 新会社名 サンコーテクノ株式会社 (三幸商事株式会社が存続会社)
平成10年 5月	千葉県流山工業団地流山工場に中央物流センターを開設
平成10年10月	ISO14001認証取得(表面処理部)(平成21年 9 月より未更新)
平成13年 3月	ISO9001認証取得(現ファスニング事業部) SANKO FASTEM USA INC. (子会社)を閉鎖
平成13年 5月	千葉県流山市の流山工場にテクノL&Iセンターを開設(研修センター・展示場)
平成13年 6月	加藤金属株式会社を吸収合併(事業用資産の有効活用)
平成13年12月	三幸産業株式会社から営業権を譲受(福岡支店担当)
平成14年 3月	株式会社サンオーを持分法適用関連会社にする サンテック株式会社を持分法適用関連会社にする
平成14年 4月	株式会社エヌ・ティ・シーを吸収合併(FRP樹脂営業拡大)
平成14年 6月	千葉県流山市工業団地にカスタマーテクノセンター開設(開発部隊集結・お客様相談窓口)
平成14年 7月	屋上外断熱防水工法システム販売開始
平成15年 7月	事業の多角化を図るため株式会社スイコーを子会社化する(連結子会社)
平成16年 9月	ドリル製品群の強化と拡大を図るため、石原機械工業株式会社(現 株式会社IKK)を子会社化する(連結子会社)
平成17年 6月	ジャスダック証券取引所に株式を上場

年月	事項
平成18年1月	海外事業の拡大を図るためアイエスエム・インタナショナル株式会社を子会社化する(連結子会社)
平成18年1月	岩盤浴施設(店舗)の運営と岩盤浴用石材の販売のため、サンコーストナジー株式会社(非連結子会社)を設立
平成18年2月	当社の所有するサンテック株式会社の全株式を売却し、持分法適用関連会社の範囲から除く
平成18年6月	開発部門と新事業部門等の部門間のシナジーを高めるため、流山工業団地にものづくりテクニカルセンターを開設
平成19年2月	岩盤浴用石材の販売強化のため、サンコーストナジー株式会社を完全子会社とし、連結の範囲に含める(平成21年1月事業停止)
平成19年8月	千葉県流山市東初石六丁目に本社を移転(現在地)
平成20年1月	事業の拡大を図るため、株式会社イーオプティマイズの増資を引受け、関連会社化する(持分法非適用関連会社)
平成21年2月	千葉県流山市に南流山事業所を設置
平成22年1月	広島県広島市に広島事業所を設置
平成22年3月	サンコーストナジー株式会社の清算終了
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所 J A S D A Q (現 大阪証券取引所 J A S D A Q (スタンダード)) に上場
平成23年5月	千葉県柏市に柏事業所を設置
平成23年8月	ベトナム社会主義共和国ハノイにSANKO FASTEM (VIETNAM) LTD. を設立 (連結子会社)

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社6社、関連会社2社により構成され、アンカー、ドリル、ファスナー等の製造販売、工事の施工、各種測定器、電子プリント基板等の製造販売を主たる業務としております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは、次のとおりであります。

なお、次の3事業は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

(1) ファスニング事業

① 当社(ファスニング事業部)

メイン製品であるあと施工アンカーを中心に、ドリル、ファスナーの製造・販売を行っております。

② SANKO FASTEM(THAILAND)LTD. (連結子会社)

あと施工アンカーを中心に製造し、主に日本向けの販売を行っております。

③ 三幸商事顧問股份有限公司(連結子会社)

日本向け輸出商材の仲介業務、新商材の発掘及び引張確認試験サービスを行っております。

④ 株式会社IKK(連結子会社)

小型鉄筋カッター、ベンダー製品を中心とした電動油圧工具の製造・販売を行っております。

⑤ アイエスエム・インタナショナル株式会社(連結子会社)

あと施工アンカー関連商品をEUから輸入し、国内と海外に販売しております。

⑥ SANKO FASTEM(VIETNAM)LTD. (連結子会社)

あと施工アンカーを中心にドリル、ファスナーを主にベトナム国内向けに販売しております。

⑦ 株式会社サンオー(持分法適用関連会社)

あと施工アンカー等の部品の組付け(製品化)を行っております。

(2) リニューアル事業

当社(リニューアル事業部)

耐震補強事業、各種維持・保全事業等を行っております。

(3) センサー事業

① 当社(センサー事業部)

各種測定器等の販売を行っております。

② 株式会社スイコー(連結子会社)

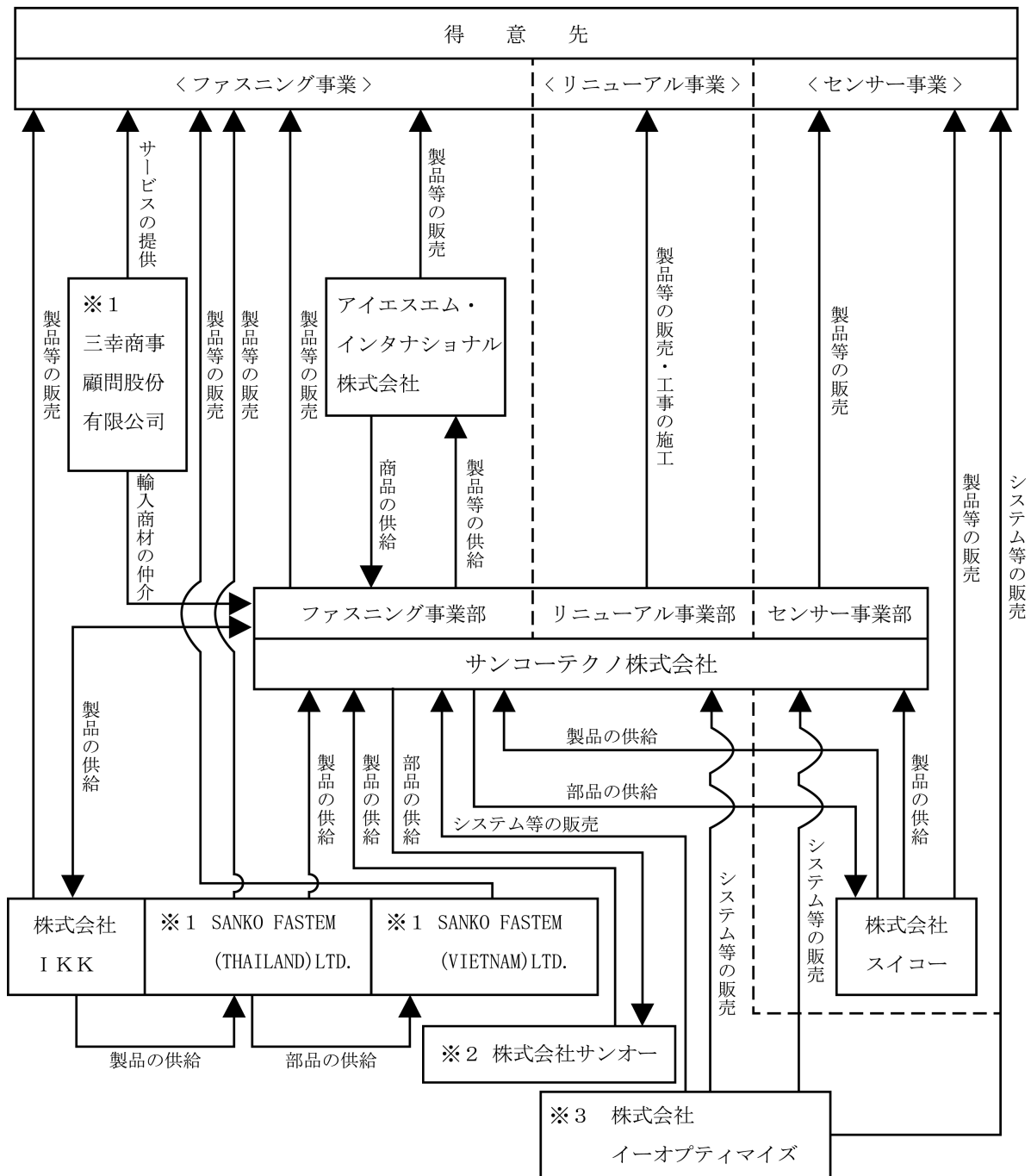
電子プリント基板の設計からマウントまでの一貫生産、販売並びに各種センサーの製造を行っております。

※報告セグメント対象外

株式会社イーオプティマイズ(持分法非適用関連会社)

IT関連のシステム販売を行っております。

〔事業系統図〕



(注) 無印 国内連結子会社
※1 海外連結子会社
※2 関連会社で持分法適用会社
※3 関連会社で持分法非適用会社

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合		関係内容
				所有 割合 (%)	被所有 割合 (%)	
(連結子会社) SANKO FASTEM(THAILAND)LTD. (注) 2	タイ王国 (バンコク)	100,000千 バーツ	ファスニング 事業	84.50	—	あと施工アンカーを生産し、当社へ供給するほか、タイ国内で販売しております。当社より資金の貸付をしております。役員の兼任3名。
三幸商事顧問股份有限公司	中華民国 (台北)	1,000千 台湾ドル	ファスニング 事業	100.00	—	輸入商品のチェック・発掘・提案をしております。役員の兼任2名。
株式会社スイコー	千葉県流山市	33,800千円	センサー事業	100.00	—	当社は、同社の部材を購入し、同社に供給しております。また、同社は、センサー製品を製造し、当社に併給しております。当社より資金の貸付をしております。役員の兼任2名。
株式会社IKK (注) 2	静岡県沼津市	493,545千円	ファスニング 事業	99.86	—	当社と同社は相互に製品を供給し、販売しております。当社は、同社より借入をしております。役員の兼任3名。
アイエスエム・インタナショナル株式会社	千葉県流山市	10,000千円	ファスニング 事業	100.00	—	あと施工アンカー関連商品をEUから輸入し、当社へ供給しております。当社より資金の貸付をしております。役員の兼任2名。
SANKO FASTEM(VIETNAM)LTD.	ベトナム社会主義共和国 (ハノイ)	13,877,710千 ベトナムドン	ファスニング 事業	84.50 (84.50)	—	主にあと施工アンカーをベトナム国内で販売しております。役員の兼任2名。
(持分法適用関連会社) 株式会社サンオー	千葉県流山市	60,000千円	ファスニング 事業	20.00	—	当社の主製品の組付け(製品化)を行い、当社へ供給しております。当社より資金の貸付をしております。役員の兼任1名。

- (注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。
2 特定子会社に該当しております。
3 「議決権の所有割合」欄の()内は、間接所有割合で内数であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

(平成24年3月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(人)
ファスニング事業	393 (47)
リニューアル事業	51 (10)
センサー事業	29 (24)
報告セグメント計	473 (81)
全社(共通)	81 (22)
合計	554 (103)

(注) 1 臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含みます。)は、最近1年間の平均人員を()外数で記載しております。

2 全社(共通)として記載される従業員数は、主に管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

(平成24年3月31日現在)

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
305 (71)	39.5	12.90	4,925

セグメントの名称	従業員数(人)
ファスニング事業	168 (37)
リニューアル事業	51 (10)
センサー事業	5 (3)
報告セグメント計	224 (49)
全社(共通)	81 (22)
合計	305 (71)

(注) 1 臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含みます。)は、最近1年間の平均人員を()外数で記載しております。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3 全社(共通)として記載される従業員数は、主に管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円滑に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における我が国経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響によるサプライチェーンの寸断や原発事故に起因した電力供給の制約などにより、国内の産業活動は急激に低下しました。下期に入り、被災地の復旧・復興に伴う公的需要で、産業活動に一部、持ち直しの兆しが見られたものの、欧州債務危機、円高の急伸、タイの洪水などにより厳しい状況が続きました。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、公共事業が全般的に低調に推移する中において、東北地方を中心とした一部被災地の復旧・復興需要への対応が下支えとなりました。また、太陽光発電市場向けの新製品を出展するなど、今年7月に施行される「再生可能エネルギー全量買取制度」への速やかな対応を見据えて取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は13,851百万円（前連結会計年度比1.7%増）、営業利益583百万円（同23.2%増）、経常利益583百万円（同31.4%増）となりました。当期純利益は、285百万円（同35.3%増）となりました。

各セグメントの業績は以下のとおりであります。

①ファスニング事業

耐震関連工事の発注が停滞しましたが、震災後の復旧・復興に向けた小規模な物件が多く発生し、主力製品である金属拡張アンカーが好調に推移しました。

この結果、当セグメントの売上高は10,817百万円（前年同期比3.8%増）、セグメント利益は583百万円（同22.7%増）となりました。

②リニューアル事業

F R Pシート関連製品や外壁補修関連製品が順調に推移しましたが、西日本地域を中心に新規工事物件の受注が低調に推移しました。

この結果、当セグメントの売上高は2,559百万円（同2.0%減）、セグメント損失は0百万円（前連結会計年度はセグメント利益11百万円）となりました。

③センサー事業

アルコール測定器が、前年度の法改正による駆込み需要の反動減となったほか、医療機器向け等の電子基板関連製品が低調に推移しました。

この結果、当セグメントの売上高は568百万円（同18.2%減）、セグメント損失は22百万円（前連結会計年度はセグメント損失13百万円）となりました。

なお、数値にはセグメント間取引を含んでおります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度と比較して65百万円（4.7%）減少し、当連結会計年度末には1,313百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の増加は、537百万円（前連結会計年度は537百万円の増加）となりました。これは主として税金等調整前当期純利益559百万円に加え、減価償却費が237百万円、営業キャッシュ・フローその他の増加が112百万円となった一方、たな卸資産の増加額が258百万円、法人税等の支払額が163百万円となったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少は、70百万円（前連結会計年度は449百万円の減少）となりました。これは主として有形固定資産の取得による支出が160百万円、貸付による支出が48百万円となった一方、有形固定資産売却に係る収入が56百万円、貸付金の回収による収入が61百万円となったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は、493百万円（前連結会計年度は95百万円の増加）となりました。これは主として短期借入金の純減少額が305百万円、長期借入金の返済による支出が121百万円、配当金の支払額が60百万円となったことによるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
	生産金額 (千円)	前年同期比 (%)
ファスニング事業	3,681,289	80.4
リニューアル事業	132,075	196.7
センサー事業	458,608	128.1
合計	4,271,973	84.6

- (注) 1 金額は製造原価によっております。
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

工事の受注状況

当連結会計年度の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
リニューアル事業	1,269,298	118.2	48,290	60.1

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
	販売金額 (千円)	前年同期比 (%)
ファスニング事業	10,816,390	103.8
リニューアル事業	2,544,546	97.9
センサー事業	490,506	80.6
合計	13,851,443	101.7

- (注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループを取り巻く建設業界は、新築からリニューアルへの移行が高まっており、加えて海外からの安価な商品の流入と価格競争の激化による利益率の低下が課題として推測されます。

このような業況下、当社グループは、次の大きな節目となる創業50周年に向けて、さらに経営の合理化及び企業体質の強化、並びに法令等遵守を徹底し企業価値の向上に全力を傾注し、以下のとおり対処してまいります。

(1) 原価低減及び採算性の確保に対する課題と対処方針

最新設備の導入によりフレキシブルな加工体制を確立し、コストダウンを積極的に進めてまいります。また、リニューアル事業については、採算性の高い工法に特化した受注を推進し利益追求をしてまいります。

(2) 品質管理に対する課題と対処方針

当社グループは、ISO9001(※1)、ISO14001(※2)を取得しており、国際的な品質管理・環境管理基準に従った製造から販売までの管理システムを有しておりますので、これを維持・改善してまいります。

	登録番号	登録内容	取得部門
ISO9001 (※1)	QAIC/JP/0660	あと施工アンカー(金属拡張アンカー打込み方式)製品の設計・製造・販売・引渡し、強度確認試験・資料提供(写真データ・テストレポート・図面)及び施工指導	当社ファスニング事業部
	QMS03072/676t	アンカーボルトの製造	SANKO FASTEM (THAILAND) LTD.
ISO14001 (※2)	EMS06007/110	アンカーボルトの製造	SANKO FASTEM (THAILAND) LTD.

(3) 海外生産拠点に対する課題と対処方針

タイ子会社のSANKO FASTEM (THAILAND) LTD. の会長と定期的に情報交換をすることで、海外生産拠点におけるトラブルや現地の法規制等の変更等の情報収集及びリスクへの対処を推進しております。

(4) 取引先への与信に対する課題と対処方針

従来から取引先の信用リスク管理には鋭意取り組んでおり、不良債権に対して十分と考える引当金を積んでおりますが、こうした取り組みをさらに強化してまいります。

(5) ユーザーニーズの即応にかかる課題と対処方針

当社内に「お客様相談窓口」を設置しており、ユーザーニーズの動向を適切に把握することに加え、そのニーズに即応することで、建築技術の進歩や代替技術・代替商品の出現、技術標準の変化等の発生に備えると共に、最新技術動向の管理を強化してまいります。

(6) 知的財産権の保護に対する課題と対処方針

当社内に、知的財産管理者を配置して知的財産権の流出・侵害等のリスクの回避に努めております。

(7) 建設業界における法的規制に対する課題と対処方針

当社内に、コンプライアンス室と内部監査室を配備して関連する法的規制の遵守に努めております。

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財政状態及び株価等、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられるリスクには以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 調達・生産・品質管理に関するリスク

①原材料の価格変動について

当社グループが製造する製品等の原材料の高騰や輸入に対する為替変動によって、調達コストが増加する懸念があります。これに対処するため、状況によっては販売価格へ転嫁させていく方針であります。当該施策が販売価格へ十分に転嫁できなかった場合には、財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

②生産・品質管理について

当社グループの予測を超えた事象により、製品の欠陥・リコール等に伴う費用が発生する懸念もあります。その結果、財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

③海外生産拠点について

当社グループのアンカー製品の一部はタイ子会社のSANKO FASTEM (THAILAND) LTD. で生産しているため、現地におけるトラブル、法規制等の変更によって生産に支障をきたした場合には、財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 与信に関するリスク

当社グループには、取引先から支払われるべき金銭の不払いにかかわるリスクが存在します。景気動向に係わらず、今後も企業が倒産する懸念があります。信用状況が悪化する顧客が増大した場合には、財政状態及び経営成績に及ぶ悪影響を回避できるという保証はありません。

(3) 保有技術に関するリスク

当社グループが予測した以上に急激な建築技術の進歩や代替技術・代替商品の出現、技術標準の変化等が発生した場合には対応が困難となる懸念があり、結果として財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 法的規制に関するリスク

当社グループの主な販売先が属する建設業界は、建設業法、建築基準法、国土利用計画法、都市計画法、独占禁止法等により法的規制を受けています。そのため、上記法律の改廃や新たな法的規制の発生、適用基準の変更等によっては当社グループの事業が制約される懸念があり、結果として財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 災害・事故に関するリスク

地震等の自然災害や火災・事故などが発生した場合、当社グループの生産体制並びに営業活動に著しい支障が生じ、財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 業績の下期偏重に関するリスク

当社グループが主に製造・販売するアンカー、ファスナー等は建設業界向けの建設資材であり、公共投資の影響などにより、従来、下期偏重型の経営成績となっております。今後も同様の傾向が続き、売上高が翌期にずれ込む場合、財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループの研究開発は、長年培ってきたファスニング技術を活かして、顧客ニーズに応えるべく安全で付加価値の高い新製品を社会に提供していくことを基本方針としております。

特に自然災害による被害の予防と復旧のための環境・防災技術（耐震システム・落橋防止システム・コンクリート剥落防止等）の開発と応用は、高い社会的評価を得ております。また、今後ますます多様化する社会インフラ事業分野において、製品の高性能化を推進し、社会資本の整備と維持・補修に貢献してまいりたいと考えております。

当社グループの研究開発活動は、基礎的研究として外部機関と共同研究を行い、コア技術の充実を図っております。お客様の要望に対しては、新製品・新技術・新工法の開発と、既存製品の改良・改善及びその応用開発を行っております。新製品・新技術・新工法の開発は、当社各事業部の開発担当及び技術開発部を合わせた総勢12名が担当しております。

さらに、今後、発展性市場としての環境市場とリニューアル関連事業の開発を推進することにより持続可能な社会形成の一翼を担い、業容の多角化と成長性、収益性を創り出すための研究開発に邁進してまいりたいと考えております。

また、既存製品の改良や生産技術・トータルコスト低減等は、事業部毎にプロジェクトチームを編成し、お客様の要望に柔軟に対応できるよう研究開発活動を行っております。

当連結会計年度の研究開発費の総額は85百万円であります。当社グループの研究開発費の金額は、基礎研究費が大半を占めており、セグメント別に配分できないため、グループ全体で記載しております。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

（財政状態の分析）

当連結会計年度（以下、「当期」という）末の総資産は、前連結会計年度（以下、「前期」という）末比188百万円（1.4%）減少し、13,504百万円となりました。

流動資産は同37百万円（0.5%）増加の7,387百万円、固定資産は同226百万円（3.6%）減少の6,117百万円となりました。減少の主な要因は、受取手形及び売掛金の減少が79百万円、短期貸付金の減少等により流動資産のその他が133百万円減少、投資その他の資産における繰延税金資産の減少が94百万円となった一方、商品及び製品の増加が189百万円となったことによるものであります。

当期末の負債の合計は、前期末比337百万円（4.8%）減少の6,736百万円となりました。流動負債は同273百万円（4.8%）減少の5,445百万円、固定負債は同63百万円（4.7%）減少の1,291百万円となりました。負債が減少した主な要因は、短期借入金の減少が419百万円、退職給付引当金の減少が49百万円となった一方、支払手形及び買掛金の増加が73百万円、未払費用等の増加により流動負債のその他が65百万円増加したことによるものであります。

当期末の純資産は、6,767百万円となり、前期末に比較して148百万円（2.2%）の増加となりました。増加の主な要因は、利益剰余金が224百万円の増加となった一方、海外子会社の財務諸表を換算する為替相場の変動により、為替換算調整勘定が76百万円減少したことによるものであります。

（資本の財源及び資金の流動性についての分析）

当社グループの当期の資金状況につきましては、営業活動による資金の増加は、537百万円となりました。これは主として税金等調整前当期純利益559百万円に加え、減価償却費が237百万円、営業キャッシュ・フローその他の増加が112百万円となった一方、たな卸資産の増加額が258百万円、法人税等の支払額が163百万円となったことによるものであります。投資活動による資金の減少は、70百万円となりました。これは主として有形固定資産の取得による支出が160百万円、貸付による支出が48百万円となった一方、有形固定資産売却に係る収入が56百万円、貸付金の回収による収入が61百万円となったことによるものであります。財務活動による資金の減少は、493百万円となりました。これは主として短期借入金の純減少額が305百万円、長期借入金の返済による支出が121百万円、配当金の支払額が60百万円となったことによるものであります。

（経営戦略の現状と見通し）

次期の見通しにつきましては、電力の供給不足の懸念や中東情勢の悪化による原油価格の高騰等、日本経済の先行きに不透明感が漂っております。建設業界をみても、震災の復旧・復興に向けた取組みが動き始めたものの、鋼材価格の上昇傾向や一部地域を除く設備投資の減少が予想されるなど、当社を取り巻く環境は依然として厳しいものと推測されます。

しかしながら、維持保全工事の需要増、自然エネルギーを活用した環境分野での需要拡大など持ち直しの動きも一部見られます。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、中期経営ビジョンのもと、安全・安心・環境をキーワードに、「建設分野でのファスニング」を越えて事業領域の拡大を目指してまいります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループは、当連結会計年度においてファスニング事業の製造設備増設を中心に189百万円の設備投資を実施いたしました。

所要資金は自己資金及び借入金によって調達しております。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループ(当社及び連結子会社)における主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

(平成24年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	工具、 器具及び 備品	土地 (面積㎡)	リース 資産	合計	
札幌支店 (札幌市白石区)	ファスニング事業	販売施設	11,119	—	421	36,565 (336)	—	48,106	7 (—)
仙台支店 (仙台市若林区)	ファスニング事業 リニューアル事業	販売施設	6,998	0	673	28,411 (384)	4	36,086	10 (1)
流山事業所 (千葉県流山市)	ファスニング事業	物流センター・ 管理業務	241,748	19,993	12,170	393,342 (10,031)	15	667,270	36 (19)
野田工場 (千葉県野田市)	ファスニング事業	アンカー 生産設備	143,815	72,199	1,943	235,029 (8,464)	—	452,988	8 (7)
ものづくりテク ニカルセンター (千葉県流山市)	ファスニング事業	研究開発 設備等	148,361	1,715	1,931	249,949 (4,750)	—	401,958	20 (2)
本社 (千葉県流山市)	—	管理統括・ 販売施設	3,818	—	913	—	42	4,774	54 (5)
南流山事業所 (千葉県流山市)	ファスニング事業 リニューアル事業	工事管理・ 販売施設	74,910	3,153	1,930	94,152 (591)	18	174,165	59 (2)
柏事業所 (千葉県柏市)	センサー事業	販売施設	38,975	161	204	36,285 (1,494)	—	75,627	5 (3)
横浜営業所 (横浜市保土ヶ 谷区)	ファスニング事業	販売施設	905	—	177	—	—	1,082	3 (2)
新潟営業所 (新潟県三条市)	ファスニング事業	販売施設	412	—	287	—	—	699	5 (2)
静岡営業所 (静岡市駿河区)	ファスニング事業	販売施設	28,259	—	99	50,523 (374)	—	78,882	3 (1)
名古屋支店 (名古屋市中川 区)	ファスニング事業 リニューアル事業	販売施設	152,242	0	530	144,200 (693)	15	296,988	12 (1)
金沢営業所 (石川県金沢市)	ファスニング事業	販売施設	40,544	452	922	113,710 (1,243)	—	155,629	5 (2)
奈良工場 (奈良県奈良市)	ファスニング事業	ドリル 生産設備	25,393	47,681	363	44,604 (1,292)	—	118,043	18 (6)

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	工具、 器具及び 備品	土地 (面積㎡)	リース 資産	合計	
大阪支店 (大阪府東大阪市)	ファスニング事業 リニューアル事業	工事管理・ 販売施設	6,970	—	2,057	269,315 (1,028)	—	278,343	22 (5)
高松営業所 (香川県高松市)	ファスニング事業	販売施設	38,650	—	541	31,019 (620)	11	70,223	9 (1)
岡山営業所・ 西部物流センター (岡山市南区)	ファスニング事業	販売施設・ 物流センター	11,610	—	1,004	158,685 (1,912)	5	171,306	7 (7)
広島営業所 (広島市中区)	ファスニング事業	販売施設	4,394	—	307	50,400 (165)	—	55,101	4 (—)
広島事業所 (広島市佐伯区)	リニューアル事業	工事管理 施設	—	—	253	—	—	253	4 (1)
福岡支店 (福岡県大野城市)	ファスニング事業	販売施設	35,934	—	333	57,060 (528)	5	93,334	11 (3)
鹿児島営業所 (鹿児島県鹿児島市)	ファスニング事業	販売施設	29,675	—	263	50,647 (380)	5	80,592	3 (2)

- (注) 1 金額に消費税等は含めておりません。
2 従業員数の()は臨時従業員を外書しております。

(2) 国内子会社

(平成24年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
				建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	合計	
株式会社 スイコー	千葉県 流山市	センサー事業	プリント 基板 生産設備	26,663	8,666	430	57,369 (1,089)	93,129	24 (22)
株式会社 IKK	静岡県 沼津市	ファスニング事業	ドリル・ 電動工具 生産設備	165,167	20,168	9,738	447,398 (16,248)	642,473	53 (3)

- (注) 1 金額に消費税等は含めておりません。
2 従業員数の()は臨時従業員を外書しております。

(3) 在外子会社

(平成24年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
				建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	合計	
SANKO FASTEM (THAILAND) LTD.	本社事業所 (タイ王国)	ファスニン グ事業	アンカー 生産設備	37,169	92,680	4,610	44,100 (20,000)	178,559	159 (9)
三幸商事 顧問股份 有限公司	本社事業所 (中華民国)	ファスニン グ事業	販売施設	—	1,590	2,971	—	4,561	5 (—)

(注) 1 上記の他にSANKO FASTEM(THAILAND)LTD.には、建設仮勘定100,800千円があります。

2 金額に消費税等は含めておりません。

3 従業員数の()は臨時従業員を外書しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループ(当社及び連結子会社)の設備投資については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備投資計画は原則として連結会社各社が個別に策定しております。

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額 (千円)		資金調達方法	着手及び完了 予定年月	
				総額	既支払額		着手	完了
SANKO FASTEM (THAILAND)LTD.	本社事業所 (タイ王国)	ファスニン グ事業	生産設備	300,000	225,993	借入金及び 自己資金	平成22年 12月	平成24年 4月

(注) 金額に消費税等は含めておりません。

(2) 重要な設備の除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,500,000
計	3,500,000

(注) 平成24年6月27日開催の定時株主総会において定款の一部変更が行われ、発行可能株式総数は同日より5,000,000株増加し、8,500,000株となっております。

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,186,352	2,186,352	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	2,186,352	2,186,352	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成19年4月1日(注)	1,093,176	2,186,352	—	768,590	—	581,191

(注) 平成19年4月1日付をもって1株を2株に株式分割し、発行済株式総数は1,093,176株増加しております。

(6) 【所有者別状況】

(平成24年3月31日現在)

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	3	6	19	1	—	544	573	—
所有株式数(単元)	—	699	18	5,751	116	—	15,248	21,832	3,152
所有株式数の割合(%)	—	3.20	0.08	26.34	0.53	—	69.84	100.0	—

(注) 1 自己株式151,593株は、「個人その他」に1,515単元及び「単元未満株式の状況」に93株を含めて記載しております。

2 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、1単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

(平成24年3月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
洞下 英人	千葉県流山市	285,796	13.07
東京中小企業投資育成(株)	東京都渋谷区渋谷3-29-22	180,152	8.24
濱中ナット販売(株)	兵庫県姫路市白浜町甲770	172,400	7.89
(有)サンワールド	千葉県流山市鰯ヶ崎16-2	168,040	7.69
サンコーテクノ社員持株会	千葉県流山市東初石6-183-1	129,896	5.94
武藤 昭二	千葉県流山市	93,560	4.28
新井 栄	埼玉県北葛飾郡杉戸町	65,524	3.00
洞下 照夫	千葉県流山市	53,756	2.46
(株)みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1-1-5	44,600	2.04
佐久間 菊子	東京都葛飾区	41,788	1.91
計	—	1,235,512	56.51

(注) 1 当社は自己株式151,593株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2 前事業年度末現在主要株主であった洞下實氏は、当事業年度末現在では主要株主ではなくなりました。

3 前事業年度末において主要株主でなかった洞下英人は、当事業年度末現在では主要株主となっております。

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

(平成24年3月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 151,500	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,031,700	20,317	—
単元未満株式	普通株式 3,152	—	—
発行済株式総数	2,186,352	—	—
総株主の議決権	—	20,317	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

② 【自己株式等】

(平成24年3月31日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
サンコーテクノ(株)	千葉県流山市東初石 六丁目183番1	151,500	—	151,500	6.93
計	—	151,500	—	151,500	6.93

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社の役員退職慰労金制度を廃止したことに伴い、会社法第361条の規定に基づき、当社の取締役に対するストックオプションとしての新株予約権に関する具体的内容について、平成24年6月27日開催の定時株主総会において決議されております。その内容は次のとおりであります。

決議年月日	平成24年6月27日
付与対象者の区分及び人数（名）	当社取締役（5）
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	当社普通株式20,000株を上限とし、新株予約権1個あたりの目的となる株式の数（以下、「付与株式数」という。）は100株とする。 なお、当社が株式分割又は株式併合を行う場合、新株予約権の目的である株式の数は、次の算式において調整される。 調整後株式数＝調整前株式数×株式分割（又は株式併合）の比率 かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数についてはこれを切り捨てる。 また、当社が吸収合併、新設合併、吸収分割、新設分割、株式交換、株式移転、株式の無償割当等を行い、株式数の調整を必要とする場合には、当社は、取締役会の決議により必要と認める株式数の調整を行うことができる。
新株予約権の行使時の払込金額	各新株予約権の払込金額は、ブラック・ショールズ・モデルを用いて算定される公正価値を基準とし、1円に満たない端数がある場合には、これを切り捨てる。 なお、上記により算出される金額は新株予約権の公正価格であり、当社は、割当対象者に対し当該金額に相当する金銭報酬を支給することとし、当社に対する報酬請求権と新株予約権の払込金額の払込債務とを相殺する。
新株予約権の行使期間	新株予約権の割当日の翌日から30年以内とする。
新株予約権の行使の条件	① 各新株予約権1個の一部行使は認めない。 ② 新株予約権者は、行使可能期間内であることに加え、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日を起算日として10日が経過するまでの間に限り、新株予約権を一括してのみ行使することができる。 ③ 当社は、新株予約権者が次の各号の一に該当した場合、新株予約権の全部又は一部を行使することはできない旨を決定することができる。 イ 禁錮以上の刑に処せられた場合。 ロ 懲戒処分による解雇の場合。 ハ 株主総会決議による解任の場合。 ニ 会社に重大な損害を与えた場合。 ホ 相続開始時に、新株予約権者が後記④に基づいて届け出た相続人が死亡している場合。 ヘ 新株予約権者が書面により新株予約権の全部または一部を放棄する旨を申し出た場合。 ④ 新株予約権は、当社に対し、相続開始前にあらかじめ相続人（ただし、当該新株予約権者の配偶者又は一親等内の親族に限る。）1名を届け出なければならない。なお、新株予約権者が当社の取締役の地位にある場合には、届け出た相続人を他の相続人（同上。）に変更することができる。 ⑤ 新株予約権者が死亡した場合、当該新株予約権者が前記④に基づいて届け出た相続人1名に限って、相続人において3ヶ月以内に新株予約権を行使することができる。 ⑥ その他の行使の条件については、取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社は、当社を消滅会社、分割会社もしくは資本下位会社とする組織再編を行う場合において、組織再編を実施する際に定める契約書または計画書等の規定に従い、新株予約権者に対して、当該組織再編に係る存続会社、分割承継会社もしくは資本上位会社となる株式会社の新株予約権を交付することができる。ただし、当該契約書または計画書等において別段の定めがなされる場合はこの限りではない。
その他	新株予約権に関するその他の内容については、新株予約権の募集事項を決定する取締役会において定める。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (一)	—	—	—	—
保有自己株式数	151,593	—	151,593	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社の利益配分につきましては、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、配当性向30%を目標に安定した配当を継続していくことを基本方針としております。

当社は、期末に年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、この剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。

当期の配当につきましては、上記の方針に基づき、1株につき35円の配当を実施することを決定いたしました。

内部留保金につきましては、企業価値向上のため、環境分野に関するファスニング製品の開発やセンサー事業にかかる新製品開発など有効投資をしてまいりたいと考えております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年6月27日 定時株主総会決議	71,216	35

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第44期	第45期	第46期	第47期	第48期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	2,600	1,870	1,900	1,820	2,558
最低(円)	1,235	640	1,300	1,190	1,530

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日より大阪証券取引所JASDAQにおけるものであり、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。それ以前はジャスダック証券取引所におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	1,978	1,990	1,698	1,670	1,900	1,995
最低(円)	1,681	1,602	1,530	1,552	1,670	1,530

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長		洞 下 英 人	昭和40年8月22日生	平成6年1月 株式会社新昭和入社 平成9年7月 当社入社 平成15年4月 当社執行役員企画本部長 平成16年6月 当社取締役企画本部長 平成18年4月 SANKO FASTEM(THAILAND)LTD. 取締役副社長(現任) 平成21年4月 当社取締役経営管理本部長 平成22年4月 当社取締役副社長 平成22年6月 当社代表取締役社長(現任)	(注)3	285,796
取締役 副社長	経営管理 本部長	佐 藤 静 男	昭和24年8月8日生	昭和43年1月 三幸商事株式会社入社(現サンコーテクノ株式会社) 昭和63年6月 同社取締役 平成元年1月 同社取締役営業本部長 平成8年4月 当社常務取締役、統括本部長 平成13年4月 当社専務取締役 平成22年4月 当社経営管理本部長(現任) 平成22年6月 当社取締役副社長(現任) 平成22年6月 株式会社IKK 取締役(現任)	(注)3	36,744
常務取締役	リニューアル事業及び 技術開発担当	洞 下 正 人	昭和37年1月8日生	昭和59年4月 三幸商事株式会社入社(現サンコーテクノ株式会社) 平成3年4月 三幸工業株式会社開発部長 平成8年4月 当社取締役開発部長 平成10年4月 当社取締役営業本部長 平成17年4月 当社取締役新事業推進本部長 平成19年4月 当社取締役新事業本部長 平成21年4月 当社取締役リニューアル事業部長 平成22年4月 当社常務取締役リニューアル事業及び技術開発担当(現任)	(注)3	37,964
常務取締役	ファスニング事業及び センサー事業担当	八 谷 剛	昭和32年9月7日生	昭和59年4月 三幸商事株式会社入社(現サンコーテクノ株式会社) 平成16年10月 当社執行役員札幌支店長 平成16年12月 石原機械工業株式会社(現株式会社IKK)常務取締役 平成18年6月 当社取締役 平成18年6月 株式会社IKK 専務取締役 平成21年4月 当社取締役D&D事業部長 平成21年4月 株式会社IKK 取締役副社長(現任) 平成22年4月 当社常務取締役ファスニング事業及びセンサー事業担当(現任)	(注)3	5,800
取締役	ファスニング事業部長	上 石 茂 行	昭和26年6月29日生	昭和53年2月 三幸商事株式会社入社(現サンコーテクノ株式会社) 平成13年4月 当社執行役員大阪支店長 平成17年4月 当社執行役員営業本部長兼大阪支店長 平成18年6月 当社取締役営業本部長兼中西部グループ長 平成21年4月 当社取締役ファスニング事業部長(現任)	(注)3	10,800

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役		佐 藤 靖	昭和35年 1 月23日生	平成 3 年 4 月 名城大学商学部助教授就任 平成 5 年 4 月 青森公立大学経営経済学部助教授 平成 7 年 8 月 博士(経済学)東北大学 平成10年 4 月 青山学院大学教授(現任) 平成12年 6 月 石原機械工業株式会社(現株式会社IKK)取締役 平成16年 1 月 青学コンサルティンググループ株式会社代表取締役社長(現任) 平成17年 6 月 当社取締役(現任)	(注) 3	3,100
監査役 (常勤)		甲 斐 常 敏	昭和11年 9 月16日生	昭和35年 4 月 旭化成株式会社入社 平成 8 年 6 月 同社化薬事業部長 平成11年 6 月 同社化薬事業部顧問 平成15年 6 月 当社監査役(現任)	(注) 5	1,200
監査役 (常勤)		鈴 木 英 雄	昭和17年 3 月 7 日生	昭和35年 4 月 株式会社第一銀行入行 平成 5 年11月 三幸商事株式会社入社(現サンコーテクノ株式会社) 平成 6 年 6 月 同社参与経理部長 平成 8 年 6 月 当社取締役経理部長 平成13年 7 月 当社取締役総務部長 平成15年 4 月 当社取締役管理本部長 平成18年 6 月 当社監査役(現任)	(注) 4	4,300
監査役		塙 善 光	昭和15年 7 月 4 日生	昭和44年 3 月 東京中小企業投資育成株式会社入社 平成 8 年 6 月 同社常務取締役 平成10年 6 月 株式会社企業育成センター専務取締役 平成18年 6 月 塙公認会計士事務所所長(現任) 平成19年 6 月 当社監査役(現任)	(注) 5	2,700
計						388,404

- (注) 1 取締役 佐藤靖は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2 監査役 甲斐常敏、塙善光は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3 平成24年 6 月28日開催の定時株主総会の終結の時から 2 年間
4 平成22年 6 月25日開催の定時株主総会の終結の時から 4 年間
5 平成23年 6 月24日開催の定時株主総会の終結の時から 4 年間
6 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役 1 名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
渡 辺 光太郎	昭和39年 1 月23日生	昭和63年 4 月 齊藤会計事務所入所 平成 2 年 4 月 渡辺会計事務所入所 平成15年 1 月 渡辺会計事務所 所長(現任) 平成15年 1 月 株式会社渡辺マネジメントパートナー 代表取締役社長(現任) 平成15年 1 月 株式会社ライトプランニング 代表取締役社長(現任)	2,200

- (注) 1 補欠監査役渡辺光太郎は、会社法第2条第16号に定める社外監査役の要件を満たしております。
2 補欠監査役の任期は、就任したときから退任した監査役の任期の満了の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

① 企業統治の体制

・企業統治の体制の概要

当社は、法令・企業倫理の遵守が経営の根幹であるとの信念に基づき、社会の信頼を得るため透明度が高く公正な経営体制を構築することが経営の最重要課題であると考え、コーポレートガバナンスの充実を図っております。

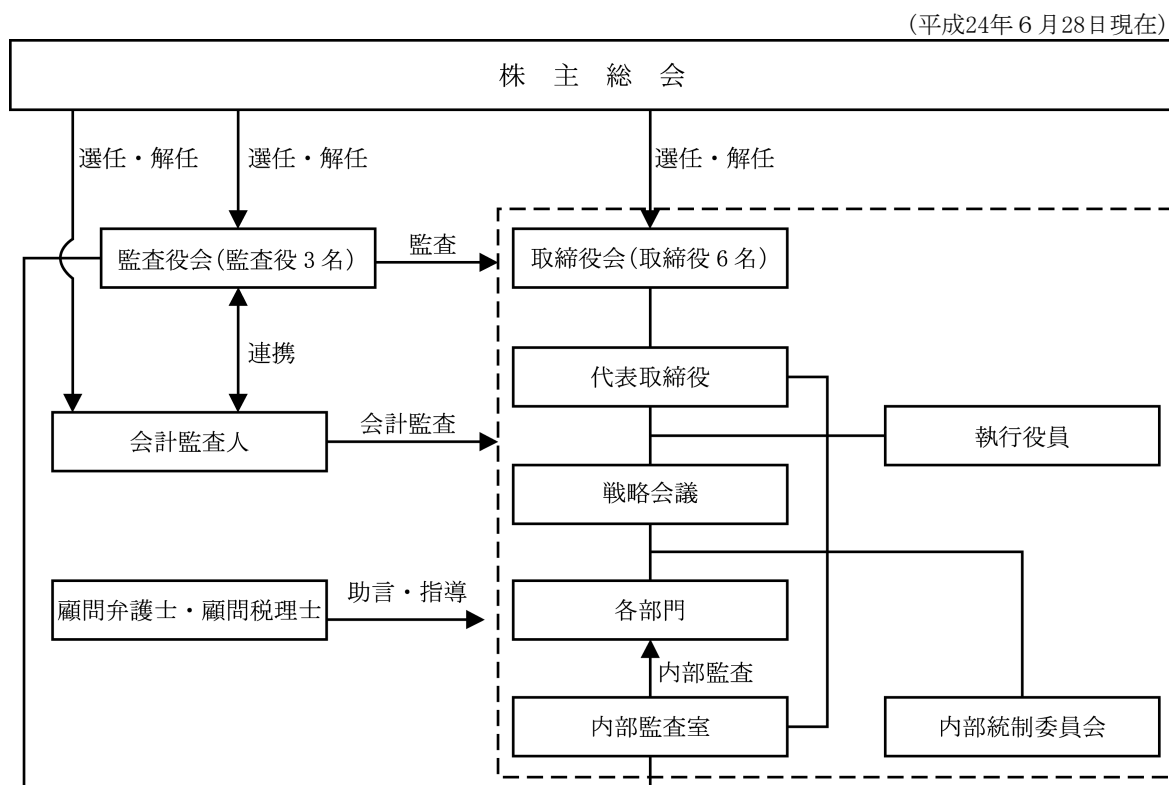
当社は、取締役会及び監査役会設置会社であり、会計監査人設置会社であります。

当社の取締役会は取締役6名（うち社外取締役1名）で構成されております。取締役会は、原則として毎月1回、必要に応じて臨時に開催され、重要な事項、法令等遵守の状況、月次業績報告及び業務執行状況が付議されております。

また、財務報告の信頼性を確保することを目的に、内部統制部門（コンプライアンス室、経理・総務・システム部門等）から構成される内部統制委員会を設置し、法令に基づいた内部統制の整備、評価を定期的に行っております。

監査役会は、監査役3名で構成されており、その内訳は社外監査役2名、社内監査役1名、また、常勤監査役2名、非常勤監査役1名となっております。監査役会は、取締役の業務執行並びに当社及び国内外の関係会社の業務や財政状況を監査しております。また、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役1名を選任しております。

〔概要図〕



・企業統治の体制を採用する理由

当社は、業務の健全性を保つため内部監査室が当社の監査を行い、その結果を直接代表取締役社長に報告しております。また、経営管理本部において関係会社の管理を行っております。

取締役及び執行役員で構成する戦略会議で情報を共有化し、具体的職務執行を監督しております。監査役も諸会議に出席し、業務執行に対する監査が有効に行われるよう努めております。株主から経営を受託し、その責任を負う取締役会と、その取締役会を監視する監査役会を中心としたコーポレート・ガバナンスの仕組みを整備しております。経営の透明性については、株主総会における事業活動の説明及び株主との対話を充実させることで確保すると共に、今後は、継続的なIR活動を通じて市場との対話を行い、経営に反映しております。

また、顧客満足度を向上させるための製品の品質維持や継続的な改善体制を監督するISO事務局及び各部署の業務を監査する内部監査室などがあり、随時十分な管理が行われる体制になっております。

以上の理由により、現在の体制は経営の監視機能の観点から十分に機能する体制と認識しており、現在の体制を採用しております。

・内部統制システムの整備の状況

当社が業務の適正を確保するための体制、また財務報告の適正を確保するための体制の整備について、取締役会において決議した事項は次のとおりであります。

a. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款等に適合することを確保するための体制

イ. 法令等遵守を経営の重要課題の一つと位置付け、企業倫理の確立及び徹底を図るためにS.T.Gモラル憲章を定めております。

ロ. 「コンプライアンス規程」に基づきコンプライアンス担当役員(統括責任者)並びに法令上疑義のある行為等の調査指導を行うための法務担当者を設置するとともに、必要に応じて各分野の担当部署が関係規程、マニュアルを策定し、研修を実施します。

ハ. 業務執行部門から独立した内部監査室が「内部監査規程」に基づき組織・制度監査として「コンプライアンス規程」の運用状況について内部監査を実施します。

ニ. 法令等遵守のための報告制度に関し「内部通報規程」に基づき監査役、内部監査室、経営管理本部に「勇気の窓口」を設置し、社内通報体制を運用します。

b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

イ. 株主総会、取締役会、戦略会議等の議事録並びに稟議書等取締役の職務の執行に係る情報を記録します。

ロ. 取締役の職務執行に係る重要な書類については「定款」、「取締役会規程」、「戦略会議規程」、「稟議(申請)規程」、「文書取扱規程」等に基づき保存及び管理します。

c. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

イ. リスク管理を経営の重要課題の一つと位置付け、方針、基本目的、行動指針等を明記した「リスクマネジメント規程」に基づきリスクの抽出・分析、マネジメントプログラムの策定等を行うとともにリスクマネジメントシステム管理責任者(統括責任者)並びに全社的な運用管理部門を設置し、リスクマネジメントシステムを運用します。

- ロ. 各部門長を部門リスクマネジメント管理者とし、各部門に係るリスク管理を行います。
- ハ. 業務執行部門から独立した内部監査室が、「内部監査規程」に基づき組織・制度監査として「リスクマネジメント規程」の運用状況について内部監査を実施します。
- ニ. 緊急事態が発生した場合には「リスクマネジメント規程」に基づき緊急対策本部を設置し、損害の拡大を防止し、これを最小限に止めます。
- d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - イ. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するために「取締役会規程」に基づき取締役会を毎月1回監査役も出席し開催するほか、臨時で決裁又は報告の必要が生じた場合は、適宜臨時取締役会を開催します。
 - ロ. 経営理念を機軸に策定される中期ビジョン並びに年度経営方針に基づき各事業部、本部、部門が経営戦略及び予算を設定し、経営目標が計画どおりに進捗しているか戦略会議で業績を確認し、必要な対策や見直しを行います。
 - ハ. 業務執行に際しては、每期首に定める「職務権限規程」等に基づき各責任者が業務を遂行します。
 - ニ. 業務執行部門から独立した内部監査室が、「内部監査規程」に基づき運用状況等効率的な業務執行について内部監査を実施します。
- e. 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
 - イ. グループ内の企業は、それぞれ自社の特性を踏まえ自主的に経営判断を行い、相互に独立性を尊重するとともに「グループ会社管理規程」に基づき法令で定められた内部統制を構築整備します。
 - ロ. グループ会社全てに適用する行動規範として定められた「S.T.Gモラル憲章」に基づきグループ各社で諸規程を定め、業務の適正を確保します。
 - ハ. 経営管理については「グループ会社管理規程」に基づき定期的にグループ最高責任者会議を開催し、グループ内企業の経営目標に対する業務執行状況及び内部統制の構築状況の報告、情報の共有化等を行い、グループ会社経営の管理を実施します。
 - ニ. グループ会社の従業員は、「グループ会社管理規程」に基づき当社からの要求内容が法令上の疑義その他コンプライアンス上問題があると認めた場合には、関連部門に報告するほか「内部通報制度」により内部監査室等に報告することができます。
- f. 財務報告の適正を確保するための体制
 - イ. 適正な財務報告を経営の重要課題の一つと位置付け、主管部門を中心として財務報告の適正を確保するために有効な内部統制を実施します。
 - ロ. 経理関係規程等に基づき適正な会計処理並びに財務報告が行われるよう、財務報告の適正を確保するために必要な規程を整備します。
 - ハ. 会計システムを通じて財務諸表が作成される重要な決算財務報告に係る業務プロセス及び決算・財務報告以外の業務プロセスの中で虚偽記載や誤りが生じる要点を認識し、不正や誤りが生じないような内部牽制等を行います。
 - ニ. 業務執行部門から独立した内部監査室が「内部監査規程」に基づき財務報告の適正を確保するための内部統制の有効性について内部監査を実施します。

g. 監査役の職務を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

イ. 監査役の職務を補助すべき組織として「監査役会事務局」を設置しており、監査役の指示に従いその職務を遂行します。

ロ. 「監査役会事務局」に所属する監査役補助者の人事異動、評価については「人事考課規程」に基づき監査役と事前に協議します。

ハ. 監査役補助者は、取締役からの独立性を確保するため業務執行部門に係る役職を兼務しません。

h. 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制、その他の監査役への報告に関する体制並びに監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

イ. 取締役会等の法令の定めるもののほか、戦略会議等の重要会議に監査役が出席することにより、取締役及び使用人の重要な業務執行に関する事項等の報告を受けることができます。

ロ. 取締役及び使用人は、監査役会が定めた「監査役会規程」、「監査役監査規程」の内容を理解し、取締役会及び監査役による監査活動に対して協力します。

ハ. 「監査役監査規程」に基づき監査役は必要に応じて重要な業務執行に関する事項等について取締役及び使用人に対して報告を求めることができるほか、会議録、稟議書、契約書等業務執行に関する重要な書類を閲覧します。

ニ. 「内部通報規程」等に基づき取締役に法令上の疑義その他コンプライアンス上問題があると認めた場合には、取締役及び使用人が「勇気の窓口」を通じ監査役に報告します。

ホ. 監査役は定期的に代表取締役と会合を持ちます。

ヘ. 監査役は当社の監査のため必要な範囲においてグループ内の企業を調査します。

ト. 監査役は監査法人、内部監査室、その他の監査機関と連携し実効的に監査します。

i. 本方針の取扱い

イ. 本方針は適宜見直しを行い、より適切な内部統制システムの構築・整備に努めます。

・リスク管理体制の整備の状況

企業活動におけるコンプライアンスを含めすべてのリスクを管理するために、S.T.Gモラル憲章、コンプライアンス規程、リスクマネジメント規程、内部通報規程等を制定し、内部監査室によるモニタリングなどにより、企業を取り巻くリスクに迅速かつ的確に対処するための体制を整えております。

② 内部監査及び監査役監査の状況

当社は、監査役の監査とは別に、内部監査室(2名)を設けております。当室は、当社グループにおける法令等及び社内規定の遵守、組織体制及び社内業務の有効性と効率性の確立を図っており、監査役会と連携して定期的に内部監査を実施し、業務改善の具体的な提案を行っております。

監査役会につきましては、監査役3名のうち2名は社外監査役であります。監査役3名は、それぞれ高い見識、専門知識、経験をもって監査を実施しております。取締役会に出席のほか、常勤監査役2名は社内の各種会議にも積極的に参加しており、取締役の職務執行を十分に監視することができる体制となっております。さらに監査役会は、会計監査人と監査結果の報告や定期的な会合等により意見交換を行い、会計監査人との連携を図っております。

また、内部監査室、監査役監査及び会計監査と内部統制部門との関係につきましては、定期的に開催されております内部統制委員会への参加のほか、必要に応じて内部統制に係る情報等の提供を受け適切な評価を行うとともに、必要な助言・指導を行っており、内部統制部門はその助言・指導に基づき、必要に応じて内部統制システムの改善を図っております。

なお、常勤監査役鈴木英雄は、当社の経理部に平成8年6月から平成18年6月まで在籍し、通算10年にわたり決算手続並びに財務諸表等の作成に従事しておりました。また、社外監査役塙善光は、公認会計士の資格を有しております。

③ 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であり、経営上の重要事項において、幅広い見識や知見を取り入れることができ、適切な判断が行われる体制を有しております。全ての社外取締役、社外監査役との間には、「第4 提出会社の状況 5 役員の状況」に記載の資本的関係以外、人的関係、取引関係その他の利害関係はありません。特に社外監査役である甲斐常敏においては独立役員として指定しております。

なお、当社においては、独立役員の選定に一定の基準はありませんが、過去の実績、人格等とともに、当社発展のため経営全般に関与いただくに相応しいかどうかを取締役会にて判断し、決定しております。

社外取締役による提言・助言は、取締役会を通して行われており、取締役会に出席している監査役との間において連携がなされております。取締役会においては、そのほか内部監査室より内部監査計画について報告を受け、内部統制担当取締役より内部統制に関する報告を受けております。

なお、社外監査役2名につきましては、会計監査人との定例報告会(年4回)及び内部監査室が同席する監査役会(月1回)への出席により、会計監査人及び内部監査室との連携を図っております。特に常勤監査役でもある甲斐常敏においては、内部統制委員会に出席し、内部統制に係る情報等の提供を受け、内部統制部門を監視しております。

④ 役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	135,921	125,198	—	10,722	7
監査役 (社外監査役を除く。)	5,979	5,520	—	459	1
社外役員	14,885	13,740	—	1,145	3

(注) 上記には、平成24年1月24日逝去により退任した取締役 洞下 実氏の報酬を含めております。

ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

役員の報酬は、株主総会が決定する報酬総額の限度額以内で、世間水準及び社員給与とのバランスを考慮して、取締役会にて決定しております。ただし、監査役の報酬は、監査役会にて決定しております。また、役員の賞与は、業績に応じ利益処分として、株主総会の決議によっております。

取締役の報酬限度額は、平成8年1月17日開催の臨時株主総会において年額240,000千円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。

監査役の報酬限度額は、平成8年1月17日開催の臨時株主総会において年額40,000千円以内と決議いただいております。

当事業年度は、役員賞与の支給はありません。

⑤ 株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

10銘柄 58,570千円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
トラスコ中山(株)	13,700	20,426	取引関係の維持・強化
(株)テクノアソシエ	26,800	18,224	取引関係の維持・強化
(株)ケー・エフ・シー	16,000	10,512	取引関係の維持・強化

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
トラスコ中山(株)	13,700	23,125	取引関係の維持・強化
(株)テクノアソシエ	26,800	17,688	取引関係の維持・強化
(株)ケー・エフ・シー	16,000	10,528	取引関係の維持・強化

⑥ 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は新日本有限責任監査法人の布施木孝叔、中川昌美であります。また、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士9名、会計士補等4名、その他2名であります。

⑦ 取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

⑧ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

⑨ 株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとした事項

(自己株式の取得)

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。これは、経営環境に適応した機動的な資本政策を遂行することを目的とするものであります。

(取締役の責任免除)

当社は、会社法第426条第1項の規定により、会社法第423条第1項に定める取締役(取締役であった者を含む。)の損害賠償責任を法令の限度において、取締役会の決議によって、その責任を免除することができる旨定款に定めております。

当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役との間に、会社法第423条第1項に定める損害賠償責任限度額を720万円以上で予め定めた額又は法令が規定する額のいずれか高い額とすることができる旨定款に定めております。

これは、取締役が職務の執行にあたり期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

(監査役の責任免除)

当社は、会社法第426条第1項の規定により、会社法第423条第1項に定める監査役(監査役であった者を含む。)の損害賠償責任を法令の限度において、取締役会の決議によって、その責任を免除することができる旨定款に定めております。

当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外監査役との間に、会社法第423条第1項に定める損害賠償責任限度額を480万円以上で予め定めた額又は法令が規定する額のいずれか高い額とすることができる旨定款に定めております。

これは、監査役が職務の執行にあたり期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

(中間配当)

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
提出会社	21,000	—	20,200	1,000
連結子会社	—	—	—	—
計	21,000	—	20,200	1,000

② 【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、会計監査人交代に係る予備調査業務であります。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数、当社の規模及び業務の特性等を勘案して決定しております。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)の連結財務諸表及び事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

当社の監査公認会計士等は次のとおり異動しております。

第47期連結会計年度の連結財務諸表及び第47期事業年度の財務諸表 太陽ASG有限責任監査法人

第48期連結会計年度の連結財務諸表及び第48期事業年度の財務諸表 新日本有限責任監査法人

当該異動について臨時報告書を提出しております。臨時報告書に記載した事項は次のとおりです。

(1) 異動に係る監査公認会計士等の氏又は名称

①選任する監査公認会計士等の名称

新日本有限責任監査法人

②退任する監査公認会計士等の名称

太陽ASG有限責任監査法人

(2) 異動の年月日

平成23年6月24日

(3) 異動監査公認会計士等が直近において監査公認会計士等となった年月日

平成19年6月25日

(4) 退任する監査公認会計士等が直近3年間に作成した監査報告書等における意見等に関する事項

該当事項はありません。

(5) 異動の決定又は異動に至った理由及び経緯

当社の会計監査人である太陽ASG有限責任監査法人が、平成23年6月24日開催予定の第47回定時株主総会終結の時をもって任期満了となりますので、新たに会計監査人として新日本有限責任監査法人を選任するものであります。

(6) 上記(5)の理由及び経緯に対する監査報告書等の記載事項に係る退任する監査公認会計士等の意見 特段の意見はない旨の回答を得ております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には会計基準の内容等を適切に把握し、適正な財務報告を実現できる体制を整備するために、外部研修・セミナー等への参加及び専門誌の定期購読等を行っております。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31 日)	当連結会計年度 (平成24年 3 月31 日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,390,890	1,335,047
受取手形及び売掛金	3,032,585	※5 2,953,551
商品及び製品	1,315,604	1,504,951
仕掛品	354,756	332,015
未成工事支出金	24,540	7,391
原材料及び貯蔵品	461,585	543,015
未収入金	512,265	536,048
繰延税金資産	118,425	122,393
その他	209,625	76,391
貸倒引当金	△70,063	△23,387
流動資産合計	7,350,216	7,387,419
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,407,316	3,429,712
減価償却累計額	△2,061,420	△2,133,067
建物及び構築物（純額）	※2 1,345,896	※2 1,296,645
機械装置及び運搬具	2,746,077	2,751,381
減価償却累計額	△2,485,509	△2,484,212
機械装置及び運搬具（純額）	260,567	267,169
工具、器具及び備品	548,204	514,833
減価償却累計額	△491,927	△468,992
工具、器具及び備品（純額）	56,276	45,840
土地	※2 3,067,211	※2 3,009,367
リース資産	3,024	3,024
減価償却累計額	△2,142	△2,898
リース資産（純額）	882	126
建設仮勘定	132,065	103,188
有形固定資産合計	4,862,899	4,722,338
無形固定資産		
ソフトウェア	87,518	88,877
のれん	7,975	—
その他	26,197	25,509
無形固定資産合計	121,691	114,387

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成24年 3 月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 158,772	※1 167,213
長期貸付金	21,607	98,019
繰延税金資産	404,148	310,095
投資不動産	590,984	598,147
減価償却累計額	△151,112	△158,343
投資不動産（純額）	※2 439,872	※2 439,803
その他	398,909	360,522
貸倒引当金	△64,484	△95,046
投資その他の資産合計	1,358,826	1,280,607
固定資産合計	6,343,417	6,117,332
資産合計	13,693,634	13,504,752
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	939,909	1,013,850
短期借入金	※2 4,228,311	※2 3,808,493
未払法人税等	95,620	98,956
賞与引当金	127,547	133,414
災害損失引当金	2,195	—
その他	325,138	390,706
流動負債合計	5,718,723	5,445,421
固定負債		
長期借入金	※2 52,728	※2 21,400
退職給付引当金	974,914	925,896
役員退職慰労引当金	218,375	229,652
繰延税金負債	92,352	98,640
その他	16,960	15,960
固定負債合計	1,355,330	1,291,549
負債合計	7,074,053	6,736,971
純資産の部		
株主資本		
資本金	768,590	768,590
資本剰余金	581,191	581,191
利益剰余金	5,459,595	5,684,029
自己株式	△244,111	△244,111
株主資本合計	6,565,266	6,789,701
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△20,618	△15,629
繰延ヘッジ損益	597	—
為替換算調整勘定	△62,701	△138,959
その他の包括利益累計額合計	△82,722	△154,588
少数株主持分	137,037	132,668
純資産合計	6,619,581	6,767,781
負債純資産合計	13,693,634	13,504,752

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
売上高	13,626,170	13,851,443
売上原価	※1 9,558,976	※1 9,609,906
売上総利益	4,067,193	4,241,537
販売費及び一般管理費		
運賃	308,327	311,718
貸倒引当金繰入額	6,308	△1,034
役員報酬	176,967	182,503
給料及び手当	1,365,646	1,362,183
賞与	189,442	212,796
賞与引当金繰入額	95,544	101,468
退職給付費用	158,598	128,849
役員退職慰労引当金繰入額	13,790	14,509
法定福利費	202,175	232,725
減価償却費	88,420	99,465
その他	988,498	1,013,104
販売費及び一般管理費合計	※2 3,593,719	※2 3,658,289
営業利益	473,473	583,247
営業外収益		
受取利息	4,503	12,309
受取配当金	2,355	2,593
仕入割引	56,842	45,257
投資不動産賃貸料	24,010	30,610
持分法による投資利益	1,434	1,682
受取保険金	2,624	38,589
その他	35,758	32,467
営業外収益合計	127,530	163,511
営業外費用		
支払利息	25,028	22,641
売上割引	82,073	89,273
その他	49,914	51,319
営業外費用合計	157,015	163,234

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
経常利益	443,988	583,523
特別利益		
固定資産売却益	※3 6	※3 5,193
特別利益合計	6	5,193
特別損失		
固定資産売却損	—	※4 1
固定資産除却損	※5 21,817	※5 2,432
減損損失	—	※6 15,199
投資有価証券売却損	—	0
投資有価証券評価損	706	—
関係会社株式評価損	4,499	—
貸倒引当金繰入額	39,761	—
災害による損失	2,127	11,231
災害損失引当金繰入額	2,195	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	920	—
特別損失合計	72,028	28,867
税金等調整前当期純利益	371,965	559,849
法人税、住民税及び事業税	153,637	168,753
法人税等調整額	△3,025	92,988
法人税等合計	150,611	261,741
少数株主損益調整前当期純利益	221,354	298,107
少数株主利益	10,281	12,630
当期純利益	211,073	285,477

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	221,354	298,107
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,500	4,996
繰延ヘッジ損益	597	△597
為替換算調整勘定	△22,377	△89,058
その他の包括利益合計	△27,281	※ △84,660
包括利益	194,073	213,447
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	186,987	213,611
少数株主に係る包括利益	7,085	△164

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	768,590	768,590
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	768,590	768,590
資本剰余金		
当期首残高	581,191	581,191
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	581,191	581,191
利益剰余金		
当期首残高	5,309,570	5,459,595
当期変動額		
剰余金の配当	△61,047	△61,042
当期純利益	211,073	285,477
当期変動額合計	150,025	224,434
当期末残高	5,459,595	5,684,029
自己株式		
当期首残高	△243,830	△244,111
当期変動額		
自己株式の取得	△281	—
当期変動額合計	△281	—
当期末残高	△244,111	△244,111
株主資本合計		
当期首残高	6,415,522	6,565,266
当期変動額		
剰余金の配当	△61,047	△61,042
当期純利益	211,073	285,477
自己株式の取得	△281	—
当期変動額合計	149,744	224,434
当期末残高	6,565,266	6,789,701

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△15,125	△20,618
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△5,492	4,989
当期変動額合計	△5,492	4,989
当期末残高	△20,618	△15,629
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	0	597
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	597	△597
当期変動額合計	597	△597
当期末残高	597	—
為替換算調整勘定		
当期首残高	△43,511	△62,701
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△19,190	△76,257
当期変動額合計	△19,190	△76,257
当期末残高	△62,701	△138,959
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△58,637	△82,722
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△24,085	△71,865
当期変動額合計	△24,085	△71,865
当期末残高	△82,722	△154,588
少数株主持分		
当期首残高	134,114	137,037
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,922	△4,368
当期変動額合計	2,922	△4,368
当期末残高	137,037	132,668
純資産合計		
当期首残高	6,490,998	6,619,581
当期変動額		
剰余金の配当	△61,047	△61,042
当期純利益	211,073	285,477
自己株式の取得	△281	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△21,162	△76,234
当期変動額合計	128,582	148,200
当期末残高	6,619,581	6,767,781

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	371,965	559,849
減価償却費	238,950	237,059
減損損失	—	15,199
のれん償却額	13,672	7,975
負ののれん償却額	△3,049	△1,049
持分法による投資損益 (△は益)	△1,434	△1,682
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	29,552	△48,517
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	13,790	11,276
賞与引当金の増減額 (△は減少)	8,188	5,866
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	36,288	△16,092
災害損失引当金の増減額 (△は減少)	2,195	△2,195
受取利息及び受取配当金	△6,859	△35,853
支払利息	25,028	22,641
投資有価証券評価損益 (△は益)	5,206	—
有形固定資産除却損	18,297	2,449
有形固定資産売却損益 (△は益)	△6	△5,191
売上債権の増減額 (△は増加)	382,255	7,085
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△17,131	△258,538
仕入債務の増減額 (△は減少)	△25,890	75,729
その他	△405,133	112,333
小計	685,887	688,345
利息及び配当金の受取額	7,499	35,780
利息の支払額	△22,525	△23,251
法人税等の支払額	△133,683	△163,286
営業活動によるキャッシュ・フロー	537,178	537,588
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△28,108	△11,160
有形固定資産の取得による支出	△296,878	△160,234
有形固定資産の売却による収入	14	56,552
無形固定資産の取得による支出	△89,340	△29,669
投資有価証券の取得による支出	△2,169	△970
貸付けによる支出	△59,053	△48,357
貸付金の回収による収入	44,378	61,830
その他の支出	△27,277	△11,711
その他の収入	8,601	73,298
投資活動によるキャッシュ・フロー	△449,834	△70,422

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	341,961	△305,905
長期借入れによる収入	70,000	—
長期借入金の返済による支出	△249,965	△121,650
自己株式の取得による支出	△281	—
配当金の支払額	△61,044	△60,812
少数株主への配当金の支払額	△4,162	△4,204
その他	△756	△756
財務活動によるキャッシュ・フロー	95,752	△493,329
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11,554	△39,288
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	171,541	△65,452
現金及び現金同等物の期首残高	1,207,825	1,379,366
現金及び現金同等物の期末残高	※ 1,379,366	※ 1,313,914

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 6 社

連結子会社の名称

SANKO FASTEM(THAILAND)LTD.

三幸商事顧問股份有限公司

(株)スイコー

(株)IKK

アイエスエム・インタナショナル(株)

SANKO FASTEM(VIETNAM)LTD.

なお、SANKO FASTEM(VIETNAM)LTD. については、新たに設立したため、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社数 1 社

関連会社の名称

(株)サンオー

持分法を適用しない関連会社の名称

(株)イーオプティマイズ

(株)イーオプティマイズは、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のSANKO FASTEM(THAILAND)LTD.、三幸商事顧問股份有限公司、(株)スイコー、アイエスエム・インタナショナル(株)、SANKO FASTEM(VIETNAM)LTD. の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成に当っては、同決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整をしております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法によって処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

ロ．たな卸資産

商品・製品・仕掛品・原材料

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

未成工事支出金

個別法による原価法を採用しております。

貯蔵品

当社は総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）、また、連結子会社は主として先入先出法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

（会計方針の変更）

当連結会計年度より当社における原材料の評価方法は、先入先出法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）から総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）に変更いたしました。

また、当連結会計年度より当社における貯蔵品の評価方法は、最終仕入原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）から総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）に変更いたしました。

これらの変更は、基幹システムの変更を契機としたものであり、在庫金額の確定の迅速化並びに原価計算の効率化を図るために行ったものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ．有形固定資産及び投資不動産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を、また、在外連結子会社は定額法を採用しております。

ただし、当社及び国内連結子会社は平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については定額法を採用しております。

主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物及び構築物	2～47年
機械装置及び運搬具	2～12年

ロ．無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

ハ．リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ. 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

ロ. 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

ハ. 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、発生した連結会計年度に一括処理しております。

ニ. 役員退職慰労引当金

当社及び一部の連結子会社は、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 重要なヘッジ会計の方法

イ. ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段…為替予約

ヘッジ対象…外貨建予定取引

ハ. ヘッジ方針

デリバティブ取引は、為替相場変動リスク回避を目的として利用しており、実需に基づかない投機目的の取引及びレバレッジ効果の高いデリバティブ取引は行わない方針であります。

ニ. ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象の重要な条件が同一であり、ヘッジ開始以降のキャッシュ・フロー変動を相殺できるため有効性の評価を省略しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

イ. 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)

ロ. その他の工事

工事完成基準

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんについては、合理的に見積もった効果発現期間（８年）による均等償却を行っております。ただし、金額が僅少なものは、発生年度に一括償却しております。

平成22年３月31日以前に行われた企業結合により発生した負ののれんについては、５年の定額法により償却を行っております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスルしか負わない取得日から３ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の処理方法

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

【表示方法の変更】

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取保険金」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた38,383千円は、「受取保険金」2,624千円、「その他」35,758千円として組み替えております。

【追加情報】

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月４日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月４日）を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

※ 1. 関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成24年 3 月31日)
投資有価証券(株式)	25,484千円	27,167千円

※ 2. 担保に供している資産及びこれに対応する債務

(1) 担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成24年 3 月31日)
建物及び構築物	104,625千円	100,132千円
土地	399,878千円	353,358千円
投資不動産	222,916千円	219,287千円
計	727,421千円	672,779千円

(2) 上記に対応する債務

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成24年 3 月31日)
短期借入金	1,774,929千円	1,630,000千円
長期借入金	5,070千円	—
計	1,780,000千円	1,630,000千円

なお、当社及び一部の連結子会社が流山工業団地(千葉県流山市所在)に有する土地(当期末帳簿価額700,661千円、前期末帳簿価額700,661千円)・建物(当期末帳簿価額424,418千円、前期末帳簿価額399,892千円)については、流山工業団地協同組合が、同組合の実施する工場等集団化事業運営の一環として同組合が有する株式会社商工組合中央金庫からの借入金(当期末残高540,763千円、前期末残高625,504千円)に対し、担保に供しております。

3. 債務保証

(1) 当社は、連結会社以外の取引先の買入債務に対して、次の通り債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成24年 3 月31日)
—	三倉工業株式会社	17,373千円

(2) 一部の連結子会社は、取引先が子会社製品を使用するリース契約につき、リース物件の引取を条件とした保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成24年 3 月31日)
	24,780千円	18,259千円

4. 貸出コミットメント契約及び当座貸越契約

当社及び一部の連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行10行と貸出コミットメント契約及び当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
貸出コミットメント及び当座貸越極度額の総額	6,000,000千円	6,300,000千円
借入実行残高	4,055,000千円	3,775,000千円
差引額	1,945,000千円	2,525,000千円

※5. 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形	—	21,517千円

(連結損益計算書関係)

※1. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	△4,567千円	△1,516千円

※2. 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
一般管理費	84,564千円	85,809千円

※3. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
機械装置及び運搬具	—	1,449千円
工具、器具及び備品	6千円	52千円
土地	—	3,691千円
計	6千円	5,193千円

※4. 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
工具、器具及び備品	—	1千円

※5. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物及び構築物	19,166千円	—
機械装置及び運搬具	2,357千円	1,772千円
工具、器具及び備品	294千円	653千円
無形固定資産	—	6千円
計	21,817千円	2,432千円

※6. 減損損失

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
福島県双葉郡楢葉町	遊休資産	土地

事業用資産については、当社は事業部を基準とし、連結子会社は原則として各社を一つの単位としてグルーピングを行っております。また、投資不動産及び遊休資産については個別物件ごとにグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、事業の用に供していない遊休資産のうち、時価が著しく下落した資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（15,199千円）として特別損失に計上しました。

なお、当資産の回収可能価額は、正味売却可能価額により算定しておりますが、売却や他の用途への転用が困難と考えられるため、零としております。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額	8,370 千円
組替調整額	0 千円
税効果調整前	8,370 千円
税効果額	3,374 千円
その他有価証券評価差額金	4,996 千円

繰延ヘッジ損益

当期発生額	△1,009 千円
組替調整額	—
税効果調整前	△1,009 千円
税効果額	△411 千円
繰延ヘッジ損益	△597 千円

為替換算調整勘定

当期発生額	△89,058 千円
組替調整額	—
税効果調整前	△89,058 千円
税効果額	—
為替換算調整勘定	△89,058 千円

その他の包括利益合計	△84,660 千円
------------	------------

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	2,186,352	—	—	2,186,352
合計	2,186,352	—	—	2,186,352
自己株式				
普通株式	151,427	166	—	151,593
合計	151,427	166	—	151,593

(注) 普通株式の自己株数の増加166株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	61,047	30	平成22年3月31日	平成22年6月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	61,042	利益剰余金	30	平成23年3月31日	平成23年6月27日

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	2,186,352	—	—	2,186,352
合計	2,186,352	—	—	2,186,352
自己株式				
普通株式	151,593	—	—	151,593
合計	151,593	—	—	151,593

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	61,042	30	平成23年3月31日	平成23年6月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	71,216	利益剰余金	35	平成24年3月31日	平成24年6月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
現金及び預金勘定	1,390,890千円	1,335,047千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△11,523千円	△21,133千円
現金及び現金同等物	1,379,366千円	1,313,914千円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

有形固定資産

主として、全社におけるコンピュータ(工具、器具及び備品)であります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	ソフトウェア	合計
取得価額相当額	94,982千円	49,352千円	62,026千円	206,362千円
減価償却累計額相当額	65,925千円	33,260千円	37,352千円	136,538千円
期末残高相当額	29,056千円	16,091千円	24,674千円	69,823千円

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	ソフトウェア	合計
取得価額相当額	49,870千円	42,691千円	55,938千円	148,500千円
減価償却累計額相当額	36,017千円	33,653千円	41,624千円	111,294千円
期末残高相当額	13,852千円	9,038千円	14,314千円	37,205千円

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	33,385千円	23,364千円
1年超	38,515千円	15,150千円
合計	71,901千円	38,515千円

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
支払リース料	38,319千円	34,329千円
減価償却費相当額	36,372千円	32,617千円
支払利息相当額	1,578千円	947千円

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

2. オペレーティング・リース取引

未経過リース料

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1 年内	3,936千円	3,584千円
1 年超	4,821千円	5,084千円
合計	8,757千円	8,669千円

(金融商品関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入及び手形債権の流動化により調達しております。デリバティブ取引は、リスク回避を目的として実需に伴う取引に限定して利用し、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金はそのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利変動のリスクに晒されております。

デリバティブ取引は、外貨建予定取引に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法については、前述の連結財務諸表のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(4) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)

当社グループは、与信管理規程に従い、取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念債権の早期把握や軽減を図っております。また、売掛金は売上割引による現金回収を原則としており、回収不能リスクの低減を行っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

② 市場リスク(為替や金利等の変動リスク)

当社は借入金に係る支払金利の変動リスクについて、コミットメント契約等を利用しております。

当社グループは投資有価証券について、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、社内方針に従い、担当部署が決裁権限者の承認を得て行っております。

③ 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。連結子会社においては、各社が適時に資金繰計画を作成・更新し、グループ内資金の融通等の手元流動性の維持などにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,390,890	1,390,890	—
(2) 受取手形及び売掛金	3,032,585	3,032,585	—
(3) 未収入金	512,265	512,265	—
(4) 投資有価証券	97,624	97,624	—
(5) 長期貸付金	21,607	20,712	△895
資産計	5,054,974	5,054,078	△895
(1) 支払手形及び買掛金	939,909	939,909	—
(2) 短期借入金	4,228,311	4,228,311	—
(3) 未払法人税等	95,620	95,620	—
(4) 長期借入金	52,728	51,745	△982
負債計	5,316,569	5,315,587	△982

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 未収入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

(5) 長期貸付金

当社では、長期貸付金の時価の算定は、一定の期間ごとに分類し、与信管理上の信用リスク区分ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。なお、一部の連結子会社では、回収可能性を反映した元利金の受取見込額を残存期間に対応する安全性の高い利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	61,148

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,378,460	—	—	—
受取手形及び売掛金	3,032,585	—	—	—
未収入金	512,265	—	—	—
投資有価証券				
その他有価証券のうち 満期があるもの				
債券	990	—	—	—
長期貸付金	—	11,033	4,574	6,000
合計	4,924,302	11,033	4,574	6,000

4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金を調達（主に銀行借入）しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入及び手形債権の流動化により調達しております。デリバティブ取引は、リスク回避を目的として実需に伴う取引に限定して利用し、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金はそのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利変動のリスクに晒されております。

デリバティブ取引は、外貨建予定取引に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約であります。なお、当社がヘッジ会計を適用しておりましたデリバティブ取引については、当連結会計年度において終了いたしました。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)

当社グループは、与信管理規程に従い、取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念債権の早期把握や軽減を図っております。また、売掛金は売上割引による現金回収を原則としており、回収不能リスクの低減を行っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

② 市場リスク(為替や金利等の変動リスク)

当社は借入金に係る支払金利の変動リスクについて、コミットメント契約等を利用しております。

当社グループは投資有価証券について、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、デリバティブ取引管理規程に従い、担当部署が決裁権限者の承認を得て行っております。

③ 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。連結子会社においては、各社が適時に資金繰計画を作成・更新し、グループ内資金の融通等の手元流動性の維持などにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成24年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません。（(注)2を参照ください。）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,335,047	1,335,047	—
(2) 受取手形及び売掛金	2,953,551	2,953,551	—
(3) 未収入金	536,048	536,048	—
(4) 投資有価証券	106,902	106,902	—
(5) 長期貸付金	98,019	93,579	△4,439
資産計	5,029,569	5,025,130	△4,439
(1) 支払手形及び買掛金	1,013,850	1,013,850	—
(2) 短期借入金	3,808,493	3,808,493	—
(3) 未払法人税等	98,956	98,956	—
(4) 長期借入金	21,400	21,024	△375
負債計	4,942,700	4,942,325	△375

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 未収入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

(5) 長期貸付金

当社では、長期貸付金の時価の算定は、一定の期間ごとに分類し、与信管理上の信用リスク区分ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。なお、一部の連結子会社では、回収可能性を反映した元利金の受取見込額を残存期間に対応する安全性の高い利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	60,310

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,316,591	—	—	—
受取手形及び売掛金	2,953,551	—	—	—
未収入金	536,048	—	—	—
投資有価証券				
その他有価証券のうち 満期があるもの				
債券	990	—	—	—
長期貸付金	—	62,445	29,574	6,000
合計	4,807,181	62,445	29,574	6,000

4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成23年3月31日)

1. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	36,923	27,538	9,384
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	36,923	27,538	9,384
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	59,711	76,776	△17,065
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	990	990	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	60,701	77,766	△17,065
合計		97,624	105,305	△7,680

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 61,148千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 減損処理を行った投資有価証券

当連結会計年度において、投資有価証券について706千円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、全て減損処理を行い、30～50%下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

1. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	41,533	27,729	16,045
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	41,533	27,729	16,045
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	64,378	77,492	△15,355
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	990	990	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	65,368	78,482	△15,355
合計		106,902	106,212	690

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 60,310千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は確定給付型の制度として厚生年金基金制度及び退職一時金制度、連結子会社(株)IKK及び三幸商事顧問股份有限公司は退職一時金制度、連結子会社(株)スイコーは中小企業退職金共済制度を設けております。

なお、当社は東京金属事業厚生年金基金に加入しておりますが、当該厚生年金基金制度は、退職給付に関する実務指針(中間報告)第33項の例外処理を行う制度であります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項(平成22年3月31日現在)

① 年金資産の額	156,307,164千円
② 年金財政計算上の給付債務の額	206,085,543千円
③ 差引額	△49,778,378千円

(2) 制度全体に占める当社の掛金拠出割合(平成23年3月31日現在)

1.29%

(3) 補足説明

上記(2)の割合は当社の実際の負担割合とは一致いたしません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は確定給付型の制度として厚生年金基金制度及び退職一時金制度、連結子会社(株)IKK、SANKO FASTEM(THAILAND)LTD. 及び三幸商事顧問股份有限公司は退職一時金制度、連結子会社(株)スイコーは中小企業退職金共済制度を設けております。

なお、当社は東京金属事業厚生年金基金に加入しておりますが、当該厚生年金基金制度は、退職給付に関する実務指針(中間報告)第33項の例外処理を行う制度であります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項(平成23年3月31日現在)

① 年金資産の額	145,552,868千円
② 年金財政計算上の給付債務の額	200,303,168千円
③ 差引額	△54,750,299千円

(2) 制度全体に占める当社の掛金拠出割合(平成24年3月31日現在)

1.25%

(3) 補足説明

上記(2)の割合は当社の実際の負担割合とは一致いたしません。

2. 退職給付債務及びその内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
	(千円)	(千円)
(1) 退職給付債務	△977,787	△928,942
(2) 年金資産	2,873	3,046
(3) 退職給付引当金	△974,914	△925,896

(注) 連結子会社㈱IKK、SANKO FASTEM(THAILAND)LTD.、三幸商事顧問股份有限公司及び㈱スイコーは、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用の内訳

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	(千円)	(千円)
(1) 勤務費用	66,138	65,552
(2) 利息費用	16,292	16,745
(3) 数理計算上の差異の費用処理額	11,259	△12,883

(注) 1. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は(1)勤務費用に計上しております。
2. 上記以外に、厚生年金基金制度への拠出額(前期97,143千円、当期99,506千円)があります。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同左
(2) 割引率	2.0%	2.0%
(3) 数理計算上の差異の処理年数	発生した連結会計年度に一括処理	同左

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	51,902千円	50,323千円
未払事業税	6,740千円	7,208千円
連結会社間内部利益消去	13,658千円	12,297千円
貸倒引当金損金算入限度超過額	29,694千円	21,939千円
たな卸資産評価損否認	18,561千円	17,149千円
役員退職慰労引当金	88,812千円	84,347千円
退職給付引当金	394,793千円	326,190千円
減損損失否認	30,856千円	—
その他有価証券評価差額金	4,584千円	1,210千円
子会社繰越欠損金	41,235千円	18,777千円
その他	26,042千円	31,891千円
繰延税金資産小計	706,882千円	571,335千円
評価性引当額	△59,731千円	△48,120千円
繰延税金資産合計	647,150千円	523,214千円
繰延税金負債		
全面時価法による土地評価差額	△162,307千円	△138,972千円
土地圧縮積立金	△54,210千円	△47,008千円
繰延ヘッジ損益	△411千円	—
特別償却準備金	—	△3,384千円
繰延税金負債合計	△216,929千円	△189,366千円
繰延税金資産(負債)の純額	430,221千円	333,848千円

繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
流動資産－繰延税金資産	118,425千円	122,393千円
固定資産－繰延税金資産	404,148千円	310,095千円
流動負債－繰延税金負債	—	—
固定負債－繰延税金負債	△92,352千円	△98,640千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率 (調整)	—	40.8%
住民税均等割	—	3.9%
評価性引当額の減少による影響	—	△3.3%
試験研究費等の税額控除	—	△2.0%
在外子会社の税率差異による影響	—	△2.3%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	—	10.2%
その他	—	△0.5%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	—	46.8%

(注) 前連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の40.8%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは37.75%、平成27年4月1日以降のものについては35.38%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が57,379千円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が57,152千円、その他有価証券評価差額金が226千円、それぞれ増加しております。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(平成23年3月31日)

当社グループは、賃貸借契約に基づき使用する事務所等のうち一部については、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、重要性がないため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

当社グループは、賃貸借契約に基づき使用する事務所等のうち一部については、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、重要性がないため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当社及び一部の連結子会社では、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル(土地を含む。)を有しております。平成23年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は9,270千円(賃貸収益は営業外収益に、賃貸費用は営業外費用に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

連結貸借対照表計上額(千円)			当連結会計年度末の時価 (千円)
当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
415,427	137,514	552,941	466,620

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2 当連結会計年度末の時価は、固定資産税評価額に基づいて自社で算定した金額であります。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当社及び一部の連結子会社では、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル(土地を含む。)を有しております。平成24年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は15,026千円(賃貸収益は営業外収益に、賃貸費用は営業外費用に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

連結貸借対照表計上額(千円)			当連結会計年度末の時価 (千円)
当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
552,941	△68,852	484,089	412,670

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2 当連結会計年度における増加はありません。当連結会計年度における主な減少は、不動産の売却(46,520千円)、減損損失(15,199千円)であります。

3 当連結会計年度末の時価は、固定資産税評価額に基づいて自社で算定した金額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行っているものであります。

当社グループは、製品・サービス別の事業部を置き、各事業部は、取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは事業部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「ファスニング事業」、「リニューアル事業」及び「センサー事業」の3つを報告セグメントとしております。

「ファスニング事業」は、主にあと施工アンカー、ドリル、ファスナー、電動油圧工具等の製造販売を行っております。

「リニューアル事業」は、耐震補強事業、各種維持・保全事業等を行っております。

「センサー事業」は、電子プリント基板及び各種測定器等の製造販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	連結財務諸表 計上額
	ファスニング 事業	リニューアル 事業	センサー事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,417,996	2,599,276	608,896	13,626,170	—	13,626,170
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,082	13,029	86,538	100,650	△100,650	—
計	10,419,078	2,612,306	695,435	13,726,820	△100,650	13,626,170
セグメント利益又はセ グメント損失 (△)	475,694	11,882	△13,708	473,868	△394	473,473
その他の項目						
減価償却費	189,252	18,835	20,911	228,999	9,950	238,950

(注) 1 調整額はセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 資産については、報告セグメントに配分しておりません。

4 減価償却費の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	連結財務諸表 計上額
	ファスニング 事業	リニューアル 事業	センサー事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,816,390	2,544,546	490,506	13,851,443	—	13,851,443
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,064	14,589	78,245	93,900	△93,900	—
計	10,817,455	2,559,136	568,752	13,945,344	△93,900	13,851,443
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	583,563	△823	△22,800	559,938	23,308	583,247
その他の項目						
減価償却費	189,123	22,814	15,682	227,619	9,439	237,059

(注) 1 調整額はセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 資産については、報告セグメントに配分しておりません。

4 減価償却費の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

5 会計方針の変更

(たな卸資産の評価方法の変更)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおり、当社でたな卸資産の評価方法を変更しております。

なお、この変更によるセグメント利益又はセグメント損失(△)への影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

	ファスニング事業	リニューアル事業	センサー事業	調整額	合計
土地	—	—	—	15,199	15,199

(注) 「調整額」の金額は、当社の遊休資産に係るものであります。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：千円)

	ファスニング事業	リニューアル事業	センサー事業	調整額	合計
当期償却額	—	—	13,672	—	13,672
当期末残高	—	—	7,975	—	7,975

なお、平成22年3月31日以前に行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	ファスニング事業	リニューアル事業	センサー事業	調整額	合計
当期償却額	3,049	—	—	—	3,049
当期末残高	3,934	—	—	—	3,934

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

	ファスニング事業	リニューアル事業	センサー事業	調整額	合計
当期償却額	—	—	7,975	—	7,975
当期末残高	—	—	—	—	—

なお、平成22年3月31日以前に行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	ファスニング事業	リニューアル事業	センサー事業	調整額	合計
当期償却額	1,049	—	—	—	1,049
当期末残高	2,885	—	—	—	2,885

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア)連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	㈱イーオブ ティマイズ	東京都 台東区	10,000	販売業	45.0	資金の貸 付、IT関 連システム の供給	受取利息	627	短期貸付金	50,000
							広告宣伝費	12,824	—	—

(イ)連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びそ の近親者が 議決権の過 半数を所有 している会 社等	サンコー・ トーカイ㈱	三重県 桑名市	10,000	製造業	当社取締役会 長洞下実の近 親者が58.3% を所有する会 社	ファスニン グ事業製品 の製造	商品の仕入	207,596	買掛金	22,227
							有償支給	109,977	未収入金	25,813
	サンエーテ クノス㈱	埼玉県 北葛飾郡 杉戸町	10,000	製造業	当社取締役会 長洞下実の近 親者が97.0% を所有する会 社	ファスニン グ事業製品 の製造	商品の仕入	74,372	買掛金	9,440

- (注) 1 上記(ア)、(イ)の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
- 2 取引条件及び取引価格の決定方針等
上記各社との取引条件については、市場価格を参考に決定しております。
- 3 サンコー・トーカイ㈱、サンエーテクノス㈱については「主要株主及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等」にも該当しておりますが、ここでの記載と重複するため省略しております。
- 4 ㈱イーオブティマイズへの貸倒懸念債権に対し、合計39,635千円の貸倒引当金を計上しております。また、当連結会計年度において合計39,635千円の貸倒引当金繰入額を計上しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア)連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

該当事項はありません。

(イ)連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	サンコー・トーカイ(株)	三重県桑名市	10,000	製造業	故洞下実の近親者が58.3%を所有する会社	ファスニング事業製品の製造	商品の仕入	175,290	—	—
							有償支給	97,102	—	—
	サンエーテクノス(株)	埼玉県北葛飾郡杉戸町	10,000	製造業	故洞下実の近親者が97.0%を所有する会社	ファスニング事業製品の製造	商品の仕入	63,056	—	—

(注) 1 上記(ア)、(イ)の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引価格の決定方針等

上記各社との取引条件については、市場価格を参考に決定しております。

3 サンコー・トーカイ(株)、サンエーテクノス(株)については「主要株主及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等」にも該当しておりますが、ここでの記載と重複するため省略しております。

4 当社取締役会長洞下 実氏は、平成24年1月24日逝去により退任しております。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1) 1株当たり純資産額	3,185.90円	3,260.88円
(算定上の基礎)		
純資産の部の合計額(千円)	6,619,581	6,767,781
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	137,037	132,668
(うち少数株主持分)	(137,037)	(132,668)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	6,482,543	6,635,112
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	2,034,759	2,034,759

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
(2) 1株当たり当期純利益金額	103.73円	140.30円
(算定上の基礎)		
当期純利益(千円)	211,073	285,477
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	211,073	285,477
期中平均株式数(株)	2,034,759	2,034,759

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	4,080,905	3,775,000	0.5	—
1年以内に返済予定の長期借入金	147,406	33,493	1.3	—
1年以内に返済予定のリース債務	756	126	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	52,728	21,400	1.0	平成25年～ 平成26年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	126	—	—	—
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	4,281,921	3,830,019	—	—

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載しておりません。

3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	21,400	—	—	—

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	2, 811, 809	6, 534, 599	10, 223, 891	13, 851, 443
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額(△)(千円)	△29, 349	200, 631	371, 106	559, 849
四半期(当期)純利益金額又は四半期純損失金額(△)(千円)	△20, 977	100, 137	179, 623	285, 477
1 株当たり四半期(当期)利益金額又は 1 株当たり四半期純損失金額(△)(円)	△10. 31	49. 21	88. 28	140. 30

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1 株当たり四半期純利益金額又は 1 株当たり四半期純損失金額(△)(円)	△10. 31	59. 52	39. 06	52. 02

2 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年 3 月31 日)	当事業年度 (平成24年 3 月31 日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	601,886	685,805
受取手形	694,495	※5 534,940
売掛金	1,844,470	1,921,571
商品及び製品	1,046,627	1,181,084
仕掛品	261,378	218,840
未成工事支出金	24,540	7,391
原材料及び貯蔵品	106,572	223,243
前渡金	1,979	4,677
前払費用	38,543	44,665
未収入金	514,804	539,870
短期貸付金	※3 438,646	※3 370,532
繰延税金資産	70,789	71,343
その他	6,362	5,068
貸倒引当金	△71,929	△25,325
流動資産合計	5,579,170	5,783,711
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,395,377	2,435,939
減価償却累計額	△1,310,587	△1,377,588
建物（純額）	※1 1,084,790	※1 1,058,351
構築物	82,011	82,011
減価償却累計額	△70,162	△72,717
構築物（純額）	11,848	9,293
機械及び装置	1,557,226	1,587,870
減価償却累計額	△1,404,098	△1,443,279
機械及び装置（純額）	153,127	144,591
車両運搬具	11,523	10,065
減価償却累計額	△8,896	△9,300
車両運搬具（純額）	2,627	765
工具、器具及び備品	334,454	334,801
減価償却累計額	△300,062	△307,465
工具、器具及び備品（純額）	34,392	27,335
土地	※1 2,114,955	※1 2,061,612
リース資産	3,024	3,024
減価償却累計額	△2,142	△2,898
リース資産（純額）	882	126
建設仮勘定	43,751	—
有形固定資産合計	3,446,376	3,302,075
無形固定資産		
特許権	4,192	3,607
借地権	9,611	9,611
ソフトウェア	80,130	81,403
その他	8,264	8,162
無形固定資産合計	102,198	102,784

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年 3 月31 日)	当事業年度 (平成24年 3 月31 日)
投資その他の資産		
投資有価証券	57,452	59,560
関係会社株式	2,627,026	2,627,026
出資金	107,610	107,600
長期貸付金	13,695	10,300
従業員に対する長期貸付金	6,265	6,115
関係会社長期貸付金	271,427	265,167
破産更生債権等	60,582	90,905
長期前払費用	3,839	—
繰延税金資産	405,114	311,141
投資不動産	590,984	598,147
減価償却累計額	△151,112	△158,343
投資不動産（純額）	※1 439,872	※1 439,803
その他	146,056	80,237
貸倒引当金	△63,080	△92,929
投資損失引当金	△15,654	△5,257
投資その他の資産合計	4,060,208	3,899,672
固定資産合計	7,608,783	7,304,531
資産合計	13,187,953	13,088,243
負債の部		
流動負債		
買掛金	※3 848,434	※3 976,637
短期借入金	※1, ※3 4,700,000	※1, ※3 4,420,000
1年内返済予定の長期借入金	※1 126,136	※1 31,328
リース債務	756	126
未払金	121,090	123,225
未払費用	97,479	142,703
未払法人税等	66,673	64,918
未成工事受入金	1,008	1,155
預り金	25,891	40,467
賞与引当金	113,747	118,247
災害損失引当金	2,195	—
その他	5,475	3,561
流動負債合計	6,108,889	5,922,371
固定負債		
長期借入金	※1 52,728	※1 21,400
リース債務	126	—
退職給付引当金	837,274	795,857
役員退職慰労引当金	191,327	203,659
その他	12,229	12,522
固定負債合計	1,093,684	1,033,438
負債合計	7,202,574	6,955,810

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年 3 月31 日)	当事業年度 (平成24年 3 月31 日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	768, 590	768, 590
資本剰余金		
資本準備金	581, 191	581, 191
資本剰余金合計	581, 191	581, 191
利益剰余金		
利益準備金	116, 616	116, 616
その他利益剰余金		
特別償却準備金	—	5, 915
土地圧縮積立金	78, 791	85, 859
別途積立金	4, 507, 658	4, 567, 658
繰越利益剰余金	184, 980	259, 121
利益剰余金合計	4, 888, 045	5, 035, 170
自己株式	△244, 111	△244, 111
株主資本合計	5, 993, 716	6, 140, 841
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△8, 934	△8, 408
繰延ヘッジ損益	597	—
評価・換算差額等合計	△8, 337	△8, 408
純資産合計	5, 985, 379	6, 132, 432
負債純資産合計	13, 187, 953	13, 088, 243

②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
売上高	11,986,247	12,161,998
売上原価		
商品及び製品売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	999,308	1,056,534
当期製品製造原価	3,728,689	2,851,782
当期商品仕入高	3,928,880	4,890,225
合計	8,656,879	8,798,542
他勘定振替高	※2 46,659	※2 42,956
商品及び製品期末たな卸高	1,056,534	1,184,254
商品及び製品売上原価	7,553,685	7,571,331
工事売上原価	1,083,454	1,093,428
たな卸資産評価損	△8,471	△9,005
売上原価合計	8,628,668	8,655,753
売上総利益	3,357,578	3,506,244
販売費及び一般管理費		
運賃	275,642	279,616
貸倒引当金繰入額	5,912	△3,304
役員報酬	140,385	144,458
給料及び手当	1,134,274	1,127,387
賞与	161,017	180,252
賞与引当金繰入額	86,221	92,837
退職給付費用	150,196	129,826
役員退職慰労引当金繰入額	12,002	12,331
法定福利費	167,132	180,897
賃借料	66,406	66,095
減価償却費	84,856	94,667
その他	806,255	806,600
販売費及び一般管理費合計	※3 3,090,303	※3 3,111,668
営業利益	267,275	394,576
営業外収益		
受取利息	9,058	11,454
受取配当金	※1 44,602	※1 44,870
仕入割引	54,274	42,886
投資不動産賃貸料	20,878	27,205
投資損失引当金戻入額	—	10,396
受取保険金	904	28,982
その他	41,936	34,394
営業外収益合計	171,654	200,190
営業外費用		
支払利息	35,069	32,327
売上割引	80,664	87,552
不動産賃貸原価	8,280	9,845
その他	34,996	28,324
営業外費用合計	159,011	158,050
経常利益	279,918	436,716

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
特別利益		
固定資産売却益	—	※4 5,081
特別利益合計	—	5,081
特別損失		
固定資産除却損	※5 7,856	※5 485
減損損失	—	※6 15,199
投資有価証券売却損	—	0
投資有価証券評価損	706	—
関係会社株式評価損	4,499	—
貸倒引当金繰入額	39,635	—
投資損失引当金繰入額	15,654	—
災害による損失	1,972	11,741
災害損失引当金繰入額	2,195	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	920	—
特別損失合計	73,440	27,427
税引前当期純利益	206,477	414,371
法人税、住民税及び事業税	107,792	113,927
法人税等調整額	△26,325	92,276
法人税等合計	81,466	206,203
当期純利益	125,010	208,167

【製造原価明細書】

		前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 材料費		2,843,507	77.4	1,912,793	68.2
II 労務費		277,234	7.5	273,392	9.7
(うち賞与引当金繰入額)		(18,154)		(14,668)	
(うち退職給付費用)		(10,009)		(18,801)	
III 経費		555,450	15.1	619,589	22.1
(うち減価償却費)		(68,832)		(61,942)	
(うち外注加工費)		(296,773)		(340,563)	
当期総製造費用		3,676,192	100.0	2,805,774	100.0
期首仕掛品たな卸高		321,442		268,866	
合計		3,997,634		3,074,641	
期末仕掛品たな卸高		268,866		222,848	
他勘定振替高		78		10	
当期製品製造原価		3,728,689		2,851,782	

(脚注)

前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
原価計算の方法 総合原価計算を採用しております。	原価計算の方法 同左
他勘定振替高 他勘定振替高は、製造経費、特別損失(災害損失)へ振替えたものであります。	他勘定振替高 他勘定振替高は、販売費及び一般管理費(消耗品費、研究開発費)へ振替えたものであります。

【完成工事原価明細表】

		前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 材料費		206,114	19.5	150,156	14.3
II 労務費		418,251	39.6	249,448	23.7
III 外注費		304,501	28.9	497,236	47.3
IV 経費		126,585	12.0	154,059	14.7
当期総工事費用		1,055,453	100.0	1,050,900	100.0
期首未成工事支出金残高		23,775		24,540	
他勘定受入高		28,766		25,378	
合計		1,107,995		1,100,820	
期末未成工事支出金残高		24,540		7,391	
当期完成工事原価		1,083,454		1,093,428	

(脚注)

前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
原価計算の方法 個別原価計算を採用しております。	原価計算の方法 同左
他勘定受入高 他勘定受入高は、商品及び製品勘定から受入れられた ものであります。	他勘定受入高 同左

③【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	768,590	768,590
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	768,590	768,590
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	581,191	581,191
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	581,191	581,191
資本剰余金合計		
当期首残高	581,191	581,191
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	581,191	581,191
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	116,616	116,616
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	116,616	116,616
その他利益剰余金		
特別償却準備金		
当期首残高	—	—
当期変動額		
特別償却準備金の積立	—	5,915
当期変動額合計	—	5,915
当期末残高	—	5,915
土地圧縮積立金		
当期首残高	78,791	78,791
当期変動額		
土地圧縮積立金の積立	—	7,068
当期変動額合計	—	7,068
当期末残高	78,791	85,859
別途積立金		
当期首残高	4,407,658	4,507,658
当期変動額		
別途積立金の積立	100,000	60,000
当期変動額合計	100,000	60,000
当期末残高	4,507,658	4,567,658

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
繰越利益剰余金		
当期首残高	221,016	184,980
当期変動額		
特別償却準備金の積立	—	△5,915
土地圧縮積立金の積立	—	△7,068
別途積立金の積立	△100,000	△60,000
剰余金の配当	△61,047	△61,042
当期純利益	125,010	208,167
当期変動額合計	△36,036	74,140
当期末残高	184,980	259,121
利益剰余金合計		
当期首残高	4,824,082	4,888,045
当期変動額		
特別償却準備金の積立	—	—
土地圧縮積立金の積立	—	—
別途積立金の積立	—	—
剰余金の配当	△61,047	△61,042
当期純利益	125,010	208,167
当期変動額合計	63,963	147,125
当期末残高	4,888,045	5,035,170
自己株式		
当期首残高	△243,830	△244,111
当期変動額		
自己株式の取得	△281	—
当期変動額合計	△281	—
当期末残高	△244,111	△244,111
株主資本合計		
当期首残高	5,930,034	5,993,716
当期変動額		
剰余金の配当	△61,047	△61,042
当期純利益	125,010	208,167
自己株式の取得	△281	—
当期変動額合計	63,682	147,125
当期末残高	5,993,716	6,140,841
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△10,345	△8,934
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,410	525
当期変動額合計	1,410	525
当期末残高	△8,934	△8,408

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	0	597
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	597	△597
当期変動額合計	597	△597
当期末残高	597	—
評価・換算差額等合計		
当期首残高	△10,345	△8,337
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,007	△71
当期変動額合計	2,007	△71
当期末残高	△8,337	△8,408
純資産合計		
当期首残高	5,919,689	5,985,379
当期変動額		
剰余金の配当	△61,047	△61,042
当期純利益	125,010	208,167
自己株式の取得	△281	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,007	△71
当期変動額合計	65,689	147,053
当期末残高	5,985,379	6,132,432

【重要な会計方針】

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

・時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

・時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) たな卸資産

・商品・製品・仕掛品・原材料・貯蔵品

総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

・未成工事支出金

個別法による原価法を採用しております。

(会計方針の変更)

当事業年度より原材料の評価方法は、先入先出法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)から総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)に変更いたしました。

また、当事業年度より貯蔵品の評価方法は、最終仕入原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)から総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)に変更いたしました。

これらの変更は、基幹システムの変更を契機としたものであり、在庫金額の確定の迅速化並びに原価計算の効率化を図るために行ったものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)につきましては、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 2～47年

機械装置及び運搬具 2～10年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 投資損失引当金

関係会社への投資に係る損失に備えるため、当該会社の財政状態等を勘案して必要と認められる額を計上しております。

(3) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、発生した事業年度に一括処理しております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段…為替予約

ヘッジ対象…外貨建予定取引

(3) ヘッジ方針

デリバティブ取引は、為替相場変動リスク回避を目的として利用しており、実需に基づかない投機目的の取引及びレバレッジ効果の高いデリバティブ取引は行わない方針であります。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象の重要な条件が同一であり、ヘッジ開始以降のキャッシュ・フロー変動を相殺できるため有効性の評価を省略しております。

5. 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

- ・当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事
工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)
- ・その他の工事
工事完成基準

6. その他財務諸表作成のための基本となる事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

【表示方法の変更】

(貸借対照表)

前事業年度において、独立掲記しておりました「流動負債」の「前受金」は、金額的重要性が乏しいため、当事業年度より流動負債の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動負債」の「前受金」に表示していた2,881千円は、「その他」として組み替えております。

前事業年度において、独立掲記しておりました「流動負債」の「前受収益」は、金額的重要性が乏しいため、当事業年度より流動負債の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動負債」の「前受収益」に表示していた2,594千円は、「その他」として組み替えております。

(損益計算書)

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取保険金」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた42,840千円は、「受取保険金」904千円、「その他」41,936千円として組み替えております。

前事業年度において、独立掲記しておりました「営業外費用」の「支払手数料」は、営業外費用の総額の100分の10以下となったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外費用」の「支払手数料」に表示していた18,225千円は、「その他」として組み替えております。

【追加情報】

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

※ 1. 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年 3 月31日)	当事業年度 (平成24年 3 月31日)
建物	104,625千円	100,132千円
土地	399,878千円	353,358千円
投資不動産	222,916千円	219,287千円
計	727,421千円	672,779千円

担保付債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年 3 月31日)	当事業年度 (平成24年 3 月31日)
短期借入金	1,719,359千円	1,623,374千円
1年内返済予定の長期借入金	55,569千円	6,625千円
長期借入金	5,070千円	—千円
計	1,780,000千円	1,630,000千円

なお、当社流山事業所(千葉県流山市所在)の土地(当期末帳簿価額643,291千円、前期末帳簿価額643,291千円)・建物(当期末帳簿価額375,360千円、前期末帳簿価額398,209千円)については、流山工業団地協同組合が、同組合の実施する工場等集団化事業運営の一環として同組合が有する株式会社商工組合中央金庫からの借入金(当期末残高540,763千円、前期末残高625,504千円)に対し、担保に供しております。

2. 偶発債務

当社は、連結会社以外の取引先の買入債務に対して、次の通り債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成23年 3 月31日)	当事業年度 (平成24年 3 月31日)
—	三倉工業株式会社	17,373千円

※ 3. 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成23年 3 月31日)	当事業年度 (平成24年 3 月31日)
流動資産		
短期貸付金	434,539千円	366,806千円
流動負債		
買掛金	131,676千円	158,398千円
短期借入金	800,000千円	800,000千円

4. 貸出コミットメント契約及び当座貸越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と貸出コミットメント契約及び当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
貸出コミットメント及び当座貸越極度額の総額	5,000,000千円	5,300,000千円
借入実行残高	3,900,000千円	3,620,000千円
差引額	1,100,000千円	1,680,000千円

※5. 事業年度末日満期手形

事業年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の事業年度末日満期手形が事業年度末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	—	15,058千円

(損益計算書関係)

※1. 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
関係会社よりの受取配当金	43,477千円	43,707千円

※2. 他勘定振替高の内訳

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
(1) 工具、器具及び備品	4,990千円	881千円
(2) 商品仕入高	—	8,756千円
(3) 工事原価	28,766千円	25,378千円
(4) 販売促進費	1,783千円	2,993千円
(5) 消耗品費	7,117千円	2,125千円
(6) 研究開発費	1,441千円	548千円
(7) 修繕費	1,883千円	1,176千円
(8) その他	676千円	1,097千円
計	46,659千円	42,956千円

※3. 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
一般管理費	84,564千円	85,809千円

※４．固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年４月１日 至 平成23年３月31日)	当事業年度 (自 平成23年４月１日 至 平成24年３月31日)
機械装置及び運搬具	—	1,389千円
工具、器具及び備品	—	0千円
土地	—	3,691千円
計	—	5,081千円

※５．固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年４月１日 至 平成23年３月31日)	当事業年度 (自 平成23年４月１日 至 平成24年３月31日)
建物	3,969千円	—
構築物	1,347千円	—
機械及び装置	2,215千円	15千円
車両運搬具	48千円	6千円
工具、器具及び備品	275千円	463千円
計	7,856千円	485千円

※６．減損損失

当事業年度(自 平成23年４月１日 至 平成24年３月31日)

当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
福島県双葉郡楢葉町	遊休資産	土地

事業用資産については、当社は事業部を基準としてグルーピングを行っております。また、投資不動産及び遊休資産については個別物件ごとにグルーピングを行っております。

当事業年度において、事業の用に供していない遊休資産のうち、時価が著しく下落した資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（15,199千円）として特別損失に計上しました。

なお、当資産の回収可能価額は、正味売却可能価額により算定しておりますが、売却や他の用途への転用が困難と考えられるため、零としております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式	151,427	166	—	151,593
合計	151,427	166	—	151,593

(注) 普通株式の自己株数の増加166株は、単元未満株式の買取による増加であります。

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式	151,593	—	—	151,593
合計	151,593	—	—	151,593

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

有形固定資産

主として、全社におけるコンピュータ(工具、器具及び備品)であります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「2. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前事業年度(平成23年3月31日)

	工具、器具及び備品	ソフトウェア	合計
取得価額相当額	39,702千円	55,677千円	95,379千円
減価償却累計額相当額	25,620千円	32,325千円	57,946千円
期末残高相当額	14,081千円	23,352千円	37,433千円

当事業年度(平成24年3月31日)

	工具、器具及び備品	ソフトウェア	合計
取得価額相当額	33,040千円	49,589千円	82,630千円
減価償却累計額相当額	24,404千円	35,539千円	59,943千円
期末残高相当額	8,636千円	14,049千円	22,686千円

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

未経過リース料期末残高相当額

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	14,902千円	14,028千円
1年超	23,308千円	9,279千円
合計	38,210千円	23,308千円

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
支払リース料	18,639千円	15,319千円
減価償却費相当額	17,875千円	14,747千円
支払利息相当額	661千円	416千円

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

2. オペレーティング・リース取引

未経過リース料

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年以内	3,936千円	2,696千円
1年超	4,821千円	2,124千円
合計	8,757千円	4,821千円

(有価証券関係)

前事業年度(平成23年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式2,614,276千円、関連会社株式12,750千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成24年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式2,614,276千円、関連会社株式12,750千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生における主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	46,408千円	44,638千円
未払事業税	6,026千円	5,483千円
貸倒引当金損金算入限度超過額	28,126千円	23,791千円
たな卸資産評価損否認	9,608千円	4,712千円
役員退職慰労引当金	78,061千円	75,243千円
退職給付引当金	341,607千円	281,574千円
減損損失否認	30,856千円	—
投資有価証券評価損否認	288千円	250千円
その他有価証券評価差額金	6,157千円	4,603千円
関係会社株式評価損	1,835千円	1,592千円
投資損失引当金	6,386千円	1,984千円
その他	18,970千円	16,923千円
繰延税金資産小計	574,335千円	460,798千円
評価性引当額	△43,809千円	△27,919千円
繰延税金資産合計	530,526千円	432,879千円
繰延税金負債		
特別償却準備金	—	△3,384千円
土地圧縮積立金	△54,210千円	△47,008千円
繰延ヘッジ損益	△411千円	—
繰延税金負債合計	△54,622千円	△50,393千円
繰延税金資産(負債)の純額	475,904千円	382,485千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	—	40.8%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	—	0.9%
住民税均等割	—	4.8%
評価性引当額の減少による影響	—	△3.8%
受取配当金等の益金不算入	—	△3.9%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	—	11.8%
その他	—	△0.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	—	49.8%

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.8%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは37.75%、平成27年4月1日以降のものについては35.38%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が49,717千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が49,011千円、その他有価証券評価差額金が705千円、それぞれ増加しております。

(資産除去債務関係)

前事業年度(平成23年3月31日)

当社は、賃貸借契約に基づき使用する事務所等のうち一部については、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、重要性がないため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

当事業年度(平成24年3月31日)

当社は、賃貸借契約に基づき使用する事務所等のうち一部については、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、重要性がないため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
(1) 1株当たり純資産額	2,941.57円	3,013.84円
(算定上の基礎)		
純資産の部の合計額(千円)	5,985,379	6,132,432
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	5,985,379	6,132,432
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	2,034,759	2,034,759

項目	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
(2) 1株当たり当期純利益金額	61.44円	102.31円
(算定上の基礎)		
当期純利益(千円)	125,010	208,167
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	125,010	208,167
期中平均株式数(株)	2,034,794	2,034,759

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	—	—	—	2,435,939	1,377,588	67,297	1,058,351
構築物	—	—	—	82,011	72,717	2,554	9,293
機械及び装置	—	—	—	1,587,870	1,443,279	43,596	144,591
車両運搬具	—	—	—	10,065	9,300	1,855	765
工具、器具及び備品	—	—	—	334,801	307,465	26,301	27,335
土地	—	—	—	2,061,612	—	—	2,061,612
リース資産	—	—	—	3,024	2,898	756	126
建設仮勘定	—	—	—	—	—	—	—
有形固定資産計	—	—	—	6,515,324	3,213,249	142,362	3,302,075
無形固定資産							
特許権	—	—	—	4,680	1,072	585	3,607
借地権	—	—	—	9,611	—	—	9,611
ソフトウェア	—	—	—	114,778	33,375	16,578	81,403
その他	—	—	—	8,353	190	102	8,162
無形固定資産計	—	—	—	137,422	34,638	17,265	102,784

- (注) 1 有形固定資産の増加額及び減少額がいずれも有形固定資産の総額の100分の5以下であるため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。
- 2 無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	135,009	39,544	20,805	35,493	118,255
投資損失引当金	15,654	—	—	10,396	5,257
賞与引当金	113,747	118,247	113,747	—	118,247
役員退職慰労引当金	191,327	12,331	—	—	203,659
災害損失引当金	2,195	—	2,195	—	—

- (注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」のうち33,080千円は洗替による戻入額であり、2,412千円は債権回収による取崩額であります。
- 2 投資損失引当金の「当期減少額(その他)」は、子会社の財政状態が回復したことによる戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 流動資産

イ. 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	20,819
預金	
当座預金	652,925
普通預金	2,983
外貨預金	9,077
小計	664,985
合計	685,805

ロ. 受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
新弘化建(株)	23,997
石徳螺子(株)	20,018
(有)宮友商会	14,347
(株)昭和コーポレーション	13,089
(株)コンセック	12,458
その他	451,029
合計	534,940

期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成24年4月	59,336
5月	81,423
6月	169,811
7月	188,437
8月	35,602
9月以降	328
合計	534,940

ハ. 売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)ネクスコ東日本エンジニアリング	58,670
(株)大林組	53,707
(株)サンフロイント	50,359
東鉄工業(株)	50,110
(株)アカギ	46,428
その他	1,662,295
合計	1,921,571

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(千円)	当期発生高(千円)	当期回収高(千円)	当期末残高(千円)	回収率(%)	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{366}$
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	
1,844,470	12,784,069	12,706,968	1,921,571	86.86	53.76

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

ニ. 商品及び製品

品目	金額(千円)
商品	
S G 358－S(呼気アルコール測定器)	22,830
A J 1(高濃度CO測定器)	19,980
A T－200(テクノテスター)	16,800
その他	680,001
小計	739,611
製品	
S C T－3040(ボードファスナー)	3,322
S C B－25X300(ボードファスナー)	2,958
R－8(オールコアドリル)	2,879
その他	432,311
小計	441,472
合計	1,181,084

ホ. 仕掛品

品目	金額(千円)
S C-1270H-B (オールアンカーS C-Mボディ)	5,843
S C-1210-B (オールアンカーS C-Mボディ)	4,261
G A-16MT R-B (グリップアンカーG Aボディ)	3,825
その他	204,909
合計	218,840

ヘ. 未成工事支出金

品目	金額(千円)
千曲川流域下水処理区終末処理場建設工事	2,754
J R吹田工場内 場内配水管他工事	1,778
U R・大本組共同実験	809
一般府道三林岡山線城之前橋橋梁補修工事	804
その他	1,244
合計	7,391

ト. 原材料及び貯蔵品

品目	金額(千円)
原材料	
S B N-M10-50(ザガネツキナットステンレス)	7,563
S B N-M12-30(ザガネツキナットステンレス)	5,235
S B N-M8-50(ザガネツキナットステンレス)	4,174
その他	154,677
小計	171,651
貯蔵品	
D A I S I-D S-S(ダイシ)	2,659
D A I S I-D S-L(ダイシ)	1,011
サンパッチパック01-C(アルミパック200X225C)	748
その他	47,173
小計	51,592
合計	223,243

② 固定資産
関係会社株式

銘柄	金額(千円)
(株)IKK	2,212,877
SANKO FASTEM(THAILAND)LTD.	345,257
(株)スイコー	31,086
アイエスエム・インタナショナル(株)	20,000
(株)サンオー	12,750
三幸商事顧問股份有限公司	5,055
その他	0
合計	2,627,026

③ 流動負債
イ. 買掛金

相手先	金額(千円)
SANKO FASTEM(THAILAND)LTD.	123,819
旭化成ジオテック(株)	97,206
三倉工業(株)	90,899
(有)エム・ワイ工業	45,930
三宮工業(株)	42,365
その他	576,415
合計	976,637

ロ. 短期借入金

相手先	金額(千円)
(株)みずほ銀行	1,296,000
(株)りそな銀行	1,010,000
(株)IKK	800,000
(株)千葉銀行	574,000
(株)京葉銀行	300,000
その他	440,000
合計	4,420,000

④ 固定負債

退職給付引当金

区分	金額(千円)
退職給付債務	795,857
合計	795,857

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4 月 1 日から 3 月 31 日まで
定時株主総会	6 月中
基準日	3 月 31 日
剰余金の配当の基準日	9 月 30 日 3 月 31 日
1 単元の株式数	100 株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目 2 番 1 号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目 2 番 1 号 みずほ信託銀行株式会社 _____ 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.sanko-techno.co.jp/ir/index.html
株主に対する特典	該当事項はありません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第47期)(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)平成23年6月27日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年6月27日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第48期第1四半期(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)平成23年8月11日関東財務局長に提出

第48期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)平成23年11月14日関東財務局長に提出

第48期第3四半期(自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)平成24年2月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成24年3月28日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4(主要株主の異動)の規定に基づく臨時報告書であります。

(5) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

事業年度 第47期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)平成24年6月1日関東財務局長に提出

(6) 四半期報告書の訂正報告書及び確認書

第48期第1四半期(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)平成24年6月1日関東財務局長に提出

第48期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)平成24年6月1日関東財務局長に提出

第48期第3四半期(自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)平成24年6月1日関東財務局長に提出

(7) 内部統制報告書の訂正報告書

事業年度 第47期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)平成24年6月1日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 6 月26日

サンコーテクノ株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 布施 木 孝 叔 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 中 川 昌 美 ㊞
業務執行社員

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているサンコーテクノ株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、サンコーテクノ株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、サンコーテクノ株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、サンコーテクノ株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は開示すべき重要な不備があるため有効でないと表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

内部統制報告書に記載されているとおり、会社の連結仕訳のうち例外的な手入力仕訳にかかる内部統制に開示すべき重要な不備があり、会社は過年度の連結財務諸表の訂正を行うとともに当連結会計年度の会計処理の再検討を行った。その結果、特定した必要な修正はすべて連結財務諸表に反映している。

これによる財務諸表監査に及ぼす影響はない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年 6 月26日

サンコーテクノ株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 布施 木 孝 叔 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 中 川 昌 美 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているサンコーテクノ株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第48期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、サンコーテクノ株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月28日
【会社名】	サンコーテクノ株式会社
【英訳名】	SANKO TECHNO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 洞下 英人
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役副社長 佐藤 静男
【本店の所在の場所】	千葉県流山市東初石六丁目183番1
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長洞下英人及び取締役副社長佐藤静男は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものです。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成24年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行っております。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社並びに連結子会社及び持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しております。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社1社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しております。なお、連結子会社5社及び持分法適用関連会社1社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）を指標として、前連結会計年度の連結売上高の2／3以上に達している当社を「重要な事業拠点」としております。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象としております。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

3 【評価結果に関する事項】

下記に記載した財務報告に係る内部統制の不備は、財務報告に重要な影響を及ぼすこととなり、開示すべき重要な不備に該当すると判断いたしました。したがって当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効ではないと判断いたしました。

記

当社グループのセンサーセグメントに関して、平成23年3月期に内部取引が発生し、平成23年3月期第4四半期においてアルコール測定器の駆け込み特需があり、期末に売上高が一時的に増加したため期ずれ調整を行い、当社のセンサーセグメントの仕入高に対応する連結子会社の売上高を計上し、相殺消去を行いました。その際、連結子会社の売上原価並びに当該取引に関する税効果の仕訳をしておりませんでした。平成24年3月期の期末監査手続きにおいて、監査人より上記の仕訳が計上されていない旨の指摘を受けました。この原因は、連結仕訳のうち例外的な手入力仕訳の検証が不十分であったことに起因しております。

当社は、連結仕訳のうち例外的な手入力仕訳の検証機能を強化する方針であります。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月28日
【会社名】	サンコーテクノ株式会社
【英訳名】	SANKO TECHNO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 洞下 英人
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役副社長 佐藤 静男
【本店の所在の場所】	千葉県流山市東初石六丁目183番1
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長洞下英人及び当社最高財務責任者取締役副社長佐藤静男は、当社の第48期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。